

(案)

チアメトキサム 農薬使用者安全評価書

2026年7月27日

農業資材審議会農薬分科会
農薬使用者安全評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬使用者安全評価部会出席者名簿>	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状	4
3. 申請に係る情報	5
4. 作用機作	5
5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法	5
II. 安全性に係る試験の概要	6
1. 経口吸収率	6
2. 毒性試験の結果概要	9
3. 公表文献における研究結果（資料 61、62、63）	10
3.1 ヒト以外における知見	13
3.2 ヒトにおける知見	16
3.2.1 疫学研究	16
3.2.2 その他の情報（中毒事例）	20
3.2.3 その他の情報（バイオモニタリング）	21
III. 農薬使用者暴露許容量（AOEL）	24
IV. 急性農薬使用者暴露許容量（AAOEL）	29
V. 暴露量の推計	31
1. 経皮吸収試験	31
2. 圃場における農薬使用者暴露	40
3. 暴露量の推計	40
VI. リスク評価結果	40
評価資料	41
別紙 1 代謝物略称	48

＜経緯＞

令和4年（2022年）12月23日	農業資材審議会への諮問（再評価）
令和8年（2026年）3月26日	農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全 評価部会（第24回）
令和8年（2026年）6月3日	農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全 評価部会（第25回）
令和8年（2026年）7月27日	農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全 評価部会（第26回）

＜農薬使用者安全評価部会出席者名簿＞

（第24回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）	（専門参考人）
櫻井 裕之 美谷島 克宏	天野 昭子	相崎 健一 アイツバマイ ゆふ 上島 通浩 成田 伊都美 元村 淳子	小坂 忠司

（第25回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）	（専門参考人）
櫻井 裕之 美谷島 克宏	天野 昭子	相崎 健一 アイツバマイ ゆふ 石井 雄二 上島 通浩 成田 伊都美 元村 淳子	小坂 忠司

（第26回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）	（専門参考人）
櫻井 裕之 美谷島 克宏	天野 昭子	相崎 健一 アイツバマイ ゆふ 上島 通浩 藤堂 浩明 成田 伊都美 元村 淳子	小坂 忠司

チアメトキサム

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

1.1 申請者 シンジェンタジャパン株式会社

1.2 登録名 チアメトキサム
3-(2-クロロ-1,3-チアゾール-5-イルメチル)-5-メチル-1,3,5-オキサジニアジン-4-イリデン(ニトロ)アミン

1.3 一般名 thiamethoxam (ISO)

1.4 化学名

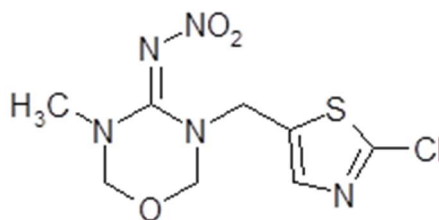
IUPAC 名 : (EZ)-3-(2-chloro-1,3-thiazol-5-ylmethyl)-5-methyl-1,3,5-oxadiazinan-4-ylidene(nitro)amine

CAS 名 : 3-[(2-chloro-5-thiazolyl)methyl]tetrahydro-5-methyl-N-nitro-4H-1,3,5-oxadiazin-4-imine
(CAS No. 153719-23-4)

1.5 分子式、構造式、分子量

分子式 $C_8H_{10}ClN_5O_3S$

構造式



分子量 291.73

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目			純度(%)	試験方法	試験結果
蒸気圧			99.7	OECD 104	2.7 × 10 ⁻⁹ Pa (20 ℃) 6.6 × 10 ⁻⁹ Pa (25 ℃)
融点			99.7	OECD 102	139 ℃
沸点			99.7	OECD 103	測定不能(147 ℃で分解)
熱安定性			98.2	OECD 113	147 ℃で分解
溶解度	水		99.7	OECD 105	4.1 g/L (25 ℃)
	有機溶媒	ヘキサン	98.2	OECD 105	< 1 mg/L (25 ℃)
		トルエン			680 mg/L (25 ℃)
		アセトン			48 g/L (25 ℃)
		メタノール			13 mg/L (25 ℃)
		1-オクタノール			620 mg/L (25 ℃)
		ジクロロメタン			110 g/L (25 ℃)
		酢酸エチル			7 g/L (25 ℃)
解離定数 (pK _a)		99.7	OECD 112	pH 2～12において解離せず	
1-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})		99.7	OECD 107	-0.13 (25 ℃)	
加水分解性		97.8～ 99.2	EPA161-1	安定 (20 ℃、5 日間、pH 1 及び pH5) 半減期 1114 日 (20 ℃、pH 7) 半減期 7.3 日(20 ℃、pH 9)	
		97.17～ 99.0	OECD111 EPA161-1	安定 (20 ℃、5 日間、pH 1 及び pH5) 半減期 1253 日 (20 ℃、pH 7) 半減期 15.6 日(20 ℃、pH 9)	
水中光分解性		98.5	EPA161-2	半減期 3.08 日 (pH 5 緩衝液、25 ℃、39.8 W/m ² 、300～400 nm)	
		97.3		半減期 2.29 日 (pH 5 緩衝液、25 ℃、39.8 W/m ² 、300～400 nm)	
		99.3	2 薬検第 955 号	半減期 4.4 時間 (蒸留水、25 ℃、47.9 W/m ² 、300～400 nm)	

試験項目	純度(%)	試験方法	試験結果	
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル	99.7	極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)
		中性		
		255	1.256	16800
		酸性		
		255	1.266	17000
		アルカリ性		
		255	1.183	15900

3. 申請に係る情報

令和 3 年（2021 年）12 月 22 日～12 月 23 日に、再評価を受けるべき者から農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）第 8 条第 3 項に基づく試験成績等を受理した。

チアメトキサムは、令和 8 年（2026 年）7 月現在、米国及び豪州等の国々で登録されている。

4. 作用機作

チアメトキサムはネオニコチノイド系殺虫剤であり、昆虫神経のシナプス後膜のニコチン性アセチルコリン受容体に作用し、シナプス伝達の遮断を起こし、殺虫作用を示す。

(IRAC 分類：4A※)

※参照：https://irac-online.org

5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法

評価対象となるチアメトキサムを含有する農薬 23 製剤について、適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法を別添 1 に示す。

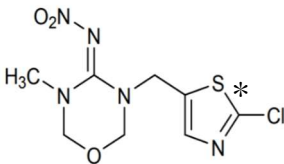
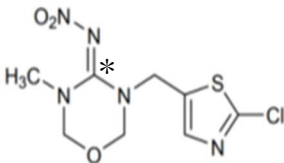
II. 安全性に係る試験の概要

チアメトキサムは、令和 8 年（2026 年）6 月 10 日、内閣府食品安全委員会において、食品健康影響評価（資料 1）がなされている。食品安全委員会では、評価に用いた試験成績において、過去のテストガイドラインに基づき実施されている試験も確認されたが、チアメトキサムの代謝・毒性プロファイルを適切に把握できることから、評価は可能と判断されている。

1. 経口吸収率

チアメトキサムのチアゾール環 2 位の炭素を ^{14}C で標識したもの（以下「[thi- ^{14}C]チアメトキサム」という。）及びオキサジアジン環 4 位の炭素を ^{14}C で標識したもの（以下「[oxa- ^{14}C]チアメトキサム」という。）（表 1）を用いた動物代謝試験による動物体内への吸収率（経口吸収率）の概要をまとめた。

表 1 標識化合物

略称	[thi- ^{14}C]チアメトキサム	[oxa- ^{14}C]チアメトキサム
構造式		
標識位置	チアゾール環2位の炭素を標識	オキサジアジン環4位の炭素を標識

1.1 ラット

① 尿及び糞中排泄（資料 2、GLP）

SD ラット（一群雌雄各 4～5 匹）に[thi- ^{14}C]チアメトキサム若しくは[oxa- ^{14}C]チアメトキサムを 0.5 mg/kg 体重（以下「低用量」という。）若しくは 100 mg/kg 体重（以下「高用量」という。）でそれぞれ単回経口投与し、又は [thi- ^{14}C]チアメトキサムを低用量で単回静脈内投与して、尿、糞及び呼気中排泄試験が実施された。

投与後 168 時間における尿及び糞中排泄率は表 2 に示されている。

排泄は速やかで、経口投与後 24 時間で約 84%TAR～95%TAR が尿中に、約 3%TAR～6%TAR が糞中に排泄された。投与 168 時間後には投与された検体のほとんどが排泄された。高用量投与群において呼気中排泄が測定されたが、投与後 48 時間の呼気中排泄は 0.2%TAR 以下であった。排泄の挙動には、性別、用量、及び標識体による差はみられなかった。静脈内投与においても同様

の傾向が認められた。

本試験より得られた尿、ケージ洗浄液及び組織中残留放射能の合計より、単回投与後 168 時間の吸収率は、低用量群で 94.0～97.6%、高用量群で 96.0～100.2%であると算出された。

表 2 投与後 168 時間における尿及び糞中排泄率 (%TAR)

標識体	[thi- ¹⁴ C]チアメトキサム						[oxa- ¹⁴ C]チアメトキサム			
投与方法	静脈内 ^a		単回経口 ^b				単回経口 ^b			
投与量 (mg/kg 体重)	0.5		0.5		100		0.5		100	
性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
尿	86.8	92.7	91.3	93.0	95.5	96.5	92.9	95.7	96.9	99.2
ケージ洗浄液	0.8	1.1	4.8	3.9	0.2	0.5	0.8	1.7	0.3	0.3
糞	5.5	3.2	5.2	3.4	5.1	4.4	5.1	4.0	5.7	4.0
総排泄率	93.1	97.0	101	100	101	102	98.8	101	103	104
組織残留 ^c	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.7
経口吸収率 ^d	—	—	96.5	97.2	96.0	97.3	94.0	97.6	97.5	100.2
総回収率	93.4	97.3	101.7	100.6	101.1	101.7	99.1	101.6	103.2	104.2

^a : 各数値は雄 4 匹又は雌 5 匹の平均値

^b : 各数値は 5 匹の平均値

^c : 組織（消化管除く）及びカーカスの合計

^d : 尿、ケージ洗浄液及び組織残留の合計

② 胆汁中排泄（資料 2、GLP）

SD ラット（一群雄 4～5 匹）に[thi-¹⁴C]チアメトキサム又は[oxa-¹⁴C]チアメトキサムを 0.5 mg/kg 体重（以下「低用量」という。）で単回経口投与して、胆汁中排泄試験が実施された。

投与後 48 時間における胆汁、尿及び糞中排泄率は表 3 に示されている。

胆汁中排泄は僅かであり、投与後 48 時間における胆汁中排泄率は、[thi-¹⁴C]チアメトキサム投与群で 3.9%TAR、[oxa-¹⁴C]チアメトキサム投与群 4.5%TAR であった。

本試験より得られた胆汁、尿、ケージ洗浄液及びカーカス中残留放射能の合計より、単回投与後 48 時間の吸収率は、低用量群で 91.2～95.2%であると算出された。

表 3 投与後 48 時間における胆汁、尿及び糞中排泄率 (%TAR)

標識体	[thi- ¹⁴ C]チアメトキシサム ^a	[oxa- ¹⁴ C]チアメトキシサム ^b
胆汁	3.9	4.5
尿	81.4	86.8
糞	4.8	3.5
ケージ洗浄液	4.4	2.3
カーカス ^c	1.5	1.6
経口吸収率 ^d	91.2	95.2
総回収率	96.0	100.7

^a : 各数値は 4 匹の平均値

^b : 各数値は 5 匹の平均値

^c : 消化管除く

^d : 胆汁、尿、ケージ洗浄液及びカーカスの合計

1.2 マウス

① 尿及び糞中排泄 (資料 3、GLP)

ICR (Tif:MAGf) マウス (一群雌雄各 16 匹) に [oxa-¹⁴C]チアメトキシサムを 0.5 mg/kg 体重 (以下「低用量」という。) 若しくは 100 mg/kg 体重 (以下「高用量」という。) で単回経口投与して、尿及糞中排泄試験が実施された。

尿及び糞中排泄率は表 4 に示されている。

単回経口投与の投与後 72 時間で 90%TAR 以上が排泄され、主に尿中に排泄された。

本試験より得られた尿、ケージ洗浄液及び組織中残留放射能の合計より、単回投与後 72 時間の経口吸収率は、低用量群で 74.1~77.1%、高用量群で 84.1~92.5%であると算出された。

表 4 投与 72 時間後における尿及び糞中排泄率 (%TAR)

標識体	[oxa- ¹⁴ C]チアメトキシサム			
投与量 (mg/kg 体重)	0.5		100	
性別	雄	雌	雄	雌
尿	71.7	73.1	82.1	89.8
ケージ洗浄液	1.57	2.84	1.32	1.93
糞	19.5	14.4	11.3	15.3
組織残留 ^a	0.78	1.11	0.64	0.76
経口吸収率 ^b	74.1	77.1	84.1	92.5
総回収率	93.6	91.5	95.4	107.9

各数値は 16 匹の平均値

^a : 組織 (消化管除く) 及びカーカス

^b : 尿、ケージ洗浄液及び組織残留の合計

2. 毒性試験の結果概要

各種毒性試験（資料 4 ～67）の結果は、資料 1（食品安全委員会農薬評価書）の II.安全性に係る試験の概要を参照した。

チアメトキサムの急性経口毒性試験の LD₅₀ はラットで雌雄：1,560 mg/kg 体重、マウスで雄：783 mg/kg 体重、雌：964 mg/kg 体重であった。経皮、吸入のいずれの投与経路においても急性毒性は弱く（LD₅₀（経皮）：>2,000 mg/kg 体重、LC₅₀（吸入）：>3.72 mg/L）、眼及び皮膚に対して刺激性は認められず、ごく軽度の皮膚感作性が認められた。

チアメトキサム投与による影響は主に腎臓（尿細管上皮硝子滴沈着等）及び肝臓（炎症性細胞浸潤、肝細胞肥大等）に認められた。発達神経毒性、繁殖能に対する影響、催奇形性、遺伝毒性及び免疫毒性は認められなかった。

発がん性試験において、雌雄のマウスで肝細胞腺腫及び肝細胞癌の増加が認められたが、腫瘍の発生機序は遺伝毒性によるものとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。

疫学研究について、チアメトキサムの食品を通じた摂取に係る健康影響への懸念を示す知見はなかった。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値はラットを用いた 2 世代繁殖毒性試験①の 0.61 mg/kg 体重/日であったが、ラットを用いた 2 世代繁殖毒性試験②の無毒性量は 1.2 mg/kg 体重/日であり、この差は用量設定の違いによると考えられ、ラットにおける無毒性量は 1.2 mg/kg 体重/日が妥当であると判断した。

以上のことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.012 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

また、チアメトキサムの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量のうち最小値は、ウサギを用いた発生毒性試験の無毒性量 50 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.5 mg/kg 体重を急性参照用量（ARfD）と設定した。

3. 公表文献における研究結果（資料 61、62、63）

表 5 に示すデータベース [MEDLINE・EMBASE 等¹、Web of Science (Core Collection) 及び J-STAGE] を用いて、それぞれ 2005 年 1 月～2015 年 4 月、2015 年 3 月 1 日～2021 年 4 月 31 日及び 2006 年 4 月 1 日～2021 年 4 月 1 日までの検索対象期間として、有効成分名及びチアメトキサムを含む製剤名をキーワードとして公表文献を検索し、評価対象となる影響、評価対象の生物種等についてガイドライン²で定めるキーワードで絞り込みが行われた。

その結果、全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野（動物を用いた研究、疫学研究等）に該当するとして収集された公表文献 1,891 報（データベース間等での重複を含む。）のうち、評価の目的と適合するものとして 20 報の公表文献が提出された。

海外評価機関が作成した評価書中に引用されている公表文献のうち、ヒトに対する毒性の分野に該当する公表文献 9 報（公表文献検索による収集との重複を含む。）が提出された。

公表文献に関する情報募集及び食品安全委員会専門委員等からの情報提供により、公表文献 15 報（公表文献検索による収集との重複を含む。）が追加され、疫学以外については 19 報、疫学については 15 報の公表文献が選択された。

評価目的との適合性等の観点から、さらに本部会で検討³した結果、疫学以外については公表文献 5 報（II. 3.1）を、疫学については公表文献 13 報（II. 3.2）を評価に使用する公表文献と判断した。

¹ MEDLINE、EMBASE、EMBAL、ESBIODBASE、AGRICOLA、BIOSIS、CABA、CAPLUS、FSTA、FROSTI、GEOREF、TOXCENTER、PQSCITECH、PASCAL、SCISEARCH、ANABST

² 公表文献の収集、選択等のためのガイドライン（令和 3 年 9 月 22 日 農業資材審議会農薬分科会決定、令和 5 年 7 月 27 日一部改正）

³ 「農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会での公表文献の取扱いについて（令和 4 年 9 月 2 日 農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会決定）」に基づく検討。

表 5 チアメトキサムに関する公表文献の検索結果

データベース名	MEDLINE・EMBASE等
検索対象期間	2005年1月～2015年4月
データベース名	Web of Science(Core Collection) ^a
検索対象期間	2015年3月1日～2021年4月31日
データベース名	J-STAGE
検索対象期間	2006年4月1日～2021年4月1日
検索結果（全データベースの検索結果を統合したもの）	
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数	4,770 ^b
ヒトに対する毒性の分野の論文数	1891 ^{bc}
全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野の論文数	86
全文に基づく適合性評価の結果、評価の目的と適合するとした文献数	20
調査対象とした海外評価書	EFSA等評価書 ^d
評価書に引用されたヒトに対する毒性の分野の文献数	9

^a：令和5年7月に文献ガイドラインが一部改正されたため、改正後の文献ガイドラインに照らし、追加で Web of Science (Core Collection) を用いた収集を実施。

^b：データベース間等での重複あり

^c：他の評価分野との重複あり

^d：調査対象とした評価書は下記

- ・ ECHA (2019): Annex 1 Background document to the Opinion proposing harmonized classification and labelling at EU level of thiamethoxam (ISO); 3-(2-chloro-thiazol-5-ylmethyl)-5-methyl[1,3,5]oxadiazinan-4-ylidene-N-nitroamine, report no. CLHO-0000006724-70-01/F, dated 5 December 2019
- ・ EC (2016): Addendum to Draft Assessment Report prepared in the context of the assessment of the Confirmatory Information requested by Reg. (EU) No 485/2013, in view of maintenance of approval of thiamethoxam according to Regulation (EC) N° 1107/2009, dated March 2016
- ・ EFSA (2011a): Guidance of EFSA: Submission of scientific peer-reviewed open literature for the approval of pesticide active substances under Regulation (EC) No 1107/2009. EFSA Journal 2011; 9(2): 2092
- ・ EFSA (2013): Conclusion on the peer review of the pesticide risk assessment for bees for the active substance thiamethoxam. EFSA Journal 2013; 11 (1): 3067, 68 pp.
- ・ EFSA (2015a): Conclusion on the peer review of the pesticide risk assessment for bees for the active substance thiamethoxam considering all uses other than seed treatments and granules. EFSA Journal 2015;13(8):4212, 70 pp.
- ・ EFSA (2018): Peer review of the pesticide risk assessment for bees for the active substance thiamethoxam considering the uses as seed treatments and granules
- ・ EPA (2011a): Thiamethoxam. Human health risk assessment for registration review. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated December 2011
- ・ EPA (2011b): Thiamethoxam. Registration review: Human health scoping information regarding the wood preservative uses (post peer review update). Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated December 2011
- ・ EPA (2012a): Guidance for considering and using open literature toxicity studies to support

human health risk assessment. Office of Pesticide Programs, U.S. Environmental Protection Agency

- EPA (2012b): White paper in support of the proposed risk assessment process for Bees. Office of Chemical Safety and Pollution Prevention. Docket number PA-HQOPP-2012-0543-0004, date September 2012
- EPA (2012c): Response to public comments for the registration review: Problem formulation for the environmental fate, ecological risk, endangered species, and drinking water exposure assessments for thiamethoxam. Docket number EPA-HQOPP-2011-0581, dated June 2012
- EPA (2017a): Thiamethoxam. Acute and chronic aggregate dietary (food and drinking water) exposure and risk assessments for registration review. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated August 2017
- EPA (2017b): Thiamethoxam: Tier I update review of human incidents and epidemiology for draft risk assessment. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated August 2017
- EPA (2017c): Thiamethoxam: Tier II drinking water exposure assessment to support registration review. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated August 2017
- EPA (2017d): Preliminary bee risk assessment to support the registration review of clothianidin and thiamethoxam. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated January 2017
- EPA (2017e): Thiamethoxam - Transmittal of the preliminary aquatic and nonpollinator terrestrial risk assessment to support registration review. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated November 2017
- EPA (2018): Thiamethoxam Registration Review. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated
- EPA (2019): Open literature review summary of Raby et al. (2018) [chronic] toxicity data. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0865-1168, dated July 2019
- EPA (2020a): Clothianidin and thiamethoxam. Proposed interim registration review decision case numbers 7620 and 7614. Docket numbers EPA-HQ-OPP-2011-0865 and EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated January 2020
- EPA (2020b): Comparative analysis of aquatic invertebrate risk quotients generated for neonicotinoids using Raby et al. (2018) toxicity data. Docket number EPA-HQOPP-2011-0581, dated January 2020
- EPA (2020c): Attachment 1 to the neonicotinoid final bee risk assessments. Tier II method for assessing combined nectar and pollen exposure to honey bee colonies. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated January 2020
- EPA (2020d): Appendices to the Final Bee Risk Assessment for Clothianidin (PC code 044309) and Thiamethoxam (PC code 060109). Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated January 2020
- EPA (2020e): Attachment 4 to the neonicotinoid final bee risk assessments. Residue bridging analysis of foliar and soil agricultural uses of neonicotinoids. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated January 2020
- FAO/WHO (2010): Summary report from the 2010 Joint FAO/WHO meeting on pesticide toxicology and residues for thiamethoxam (245)
- FAO/WHO (2011): Summary report from the 2011 Joint FAO/WHO meeting on pesticide toxicology and residues for thiamethoxam (245)
- FAO/WHO (2012): Summary report from the 2012 Joint FAO/WHO meeting on pesticide toxicology and residues for thiamethoxam (245) and clothianidin (238)
- FAO/WHO (2014): Summary report from the 2014 Joint FAO/WHO meeting on pesticide toxicology and residues for thiamethoxam (245)

3.1 ヒト以外における知見

① 動物体内動態の検討（ラット及びマウス）

Tif:RaIf ラット（一群雌雄各1 匹）及びTif:MAGf マウス（一群雄6 匹）に、[oxa-¹⁴C]チアメトキサムを100 mg/kg 体重で単回経口投与し、経時的に血液が採取され、代謝物同定・定量試験が実施された。

ラットではチアメトキサム及び代謝物Bが、マウスではチアメトキサム並びに代謝物B、D及びMが主に検出された。代謝物略称は別紙1 に示されている。

ラットにおいて、チアメトキサムは投与6時間後にC_{max} に達した。代謝物B及び代謝物M（代謝物Dを含む）も同様であった。マウスにおいて、チアメトキサムは投与0.5時間後、代謝物B、D及びMは投与2時間後にそれぞれC_{max} に達した。

ラットにおける代謝物D 及びM の血中濃度は、マウスに比べて僅かであった。（資料 64）

② 動物体内動態の検討（マウス）

Swiss-Webster マウス（雄、匹数不明）にチアメトキサム若しくは代謝物B 又はD を 20 mg/kg 体重で単回腹腔内投与（溶媒：DMSO）して、尿及び糞を試料として未変化のチアメトキサム並びに代謝物B、D、G、M 及びTMX-dm-NNO⁴が分析された。

チアメトキサム投与後9～24時間の尿において、投与量に対する割合（チアメトキサム当量）として未変化体のチアメトキサムは27%、代謝物Bは11%、代謝物Dは5%、TMX-dm-NNOは4%、代謝物Gは3%検出された。代謝物Mは0.1%未満であった。投与後0～24時間の糞中では、未変化体のチアメトキサムは1%であった。代謝物B投与後9～24時間の尿において、未変化体の代謝物Bは19%、代謝物Mは17%、代謝物Gは14%検出された。投与後0～24時間の糞中では、未変化体の代謝物Bは1.5%であった。代謝物D投与後9～24時間の尿において、未変化体の代謝物Dは23%、代謝物Mは11%、TMX-dm-NNOは7%、代謝物Gは2%検出された。投与後0～24時間の糞中では、未変化体の代謝物Dは0.9%であった。（資料 65）

③ 神経行動学的影響の検討（ラット）

Wister ラット（一群5 又は9 匹）にチアメトキサムを0、25、50 及び100

⁴ 代謝物D のニトロソグアニジン誘導体

mg/kg 体重/日で 7 日間皮下投与し、オープンフィールド及び高架式十字迷路試験が実施された。また、海馬、線条体及び皮質における AChE 活性並びに海馬における高親和性コリン取り込み (HACU) が測定された。

50 mg/kg 体重/日以上投与群で高架式十字迷路でのオープンアーム滞在時間の短縮が、100 mg/kg 体重/日投与群で自発運動量の減少が認められた。また、50 mg/kg 体重/日以上投与群で最終投与 2 時間後の海馬、皮質及び線条体並びに最終投与後 7 日の海馬において、AChE 活性の低下が認められた。50 mg/kg 体重/日以上投与群で最終投与 2 時間後の海馬において HACU 低下が認められた。(資料 66)

④ ホルムアルデヒド生成に関する検討

a. *In vitro* 試験

マウス、ラット又はヒト由来の肝ミクロソームに、チアメトキサム又は代謝物 D を 300 $\mu\text{mol/L}$ の最終濃度となるよう添加し、37°C、1 時間インキュベートして、ホルムアルデヒド生成の違いについて比較検討された。マウスでは、ラット又はヒトと比較して、チアメトキサム又は代謝物 D からのホルムアルデヒド生成量が有意に高かった。

組換え CYP アイソザイム (rCYP3A4 又は rCYP2C19、25 pmol) に、NADPH 存在下及び非存在下でチアメトキサム又は代謝物 D を 300 $\mu\text{mol/L}$ の最終濃度となるよう添加し、37°C、1 時間インキュベートして、代謝活性及びホルムアルデヒド生成について比較検討された。rCYP3A4 は rCYP2C19 よりも効率的にチアメトキサムを代謝した。代謝物 D の代謝並びにチアメトキサム及び代謝物 D からのホルムアルデヒドの生成量は、両組換えアイソザイムにおいて同様であった。

b. *In vivo* 試験

Swiss-Webster マウス (雄、匹数不明) にチアメトキサム (15~25mg/kg、溶媒:DMSO) を 45 分間隔で 1~3 回、腹腔内投与し、最終投与 30 分後に肝臓を摘出してホルムアルデヒド濃度が分析された。バックグランドの変動及びほかの肝臓成分の干渉により、結論は得られなかった。(資料 67)

⑤ ヒトの各組織中の推定チアメトキサム濃度に関する検討

SD ラット (一群雌 4 匹、対照群雌 5 匹) にチアメトキサムを 1 mg/kg 体重で単回経口投与(溶媒:水)して、1、2、4、8 及び 24 時間後に肝臓、腎臓、血液、脳、子宮及び筋肉中のチアメトキサム濃度が測定された。また、投与 0~4、4~8 及び 8~24 時間の尿並びに投与後 24 時間の糞中のチアメトキ

サム濃度も測定された。

公表文献調査により、ヒトのチアメトキサム摂取量及びヒトにおける血中/尿中濃度比が推定された。ヒトのチアメトキサム摂取量から、ラットの試験における尿中濃度/摂取量比、ヒトにおける血中/尿中濃度比、ラットの試験における組織中/血中濃度比を用いて、ヒトの各組織中のチアメトキサム濃度が推定された。

ヒトの各組織中の推定チアメトキサム濃度は、肝臓において 0.038～0.58 ng/g、腎臓において 0.061～0.92 ng/g、脳において 0.019～0.28 ng/g、子宮において 0.024～0.36 ng/g、筋肉において 0.044～0.66 ng/g であった。また、最大で肝臓において 253 ng/g、腎臓において 404 ng/g、脳において 124 ng/g、子宮において 158 ng/g、筋肉において 290 ng/g となる可能性がある と推定された。

ヒトの脳及び子宮中の推定チアメトキサム濃度と公表文献調査による細胞における無毒性量の比から、神経毒性及び発生毒性のハザード比が算出され、神経毒性では $1.3 \times 10^{-6} \sim 1.9 \times 10^{-5}$ 、発生毒性では $8.2 \times 10^{-4} \sim 1.2 \times 10^{-2}$ であった。

また、最大で神経毒性では 8.5×10^{-3} 、発生毒性では 5.4 となる可能性が示唆された。（資料 68）

3.2 ヒトにおける知見

3.2.1 疫学研究

提出された疫学研究に該当する文献について、チアメトキサムへの暴露と健康影響との関連について検討した。

健康関連の事象（疾病等）との関連が検討された主な文献は、小児期発達遅延 1 報、妊娠糖尿病 1 報、小児の肥満 1 報、ステロイドホルモンに対する影響 1 報、歯周病 1 報、母体の血液学的パラメータ及び新生児への影響 1 報及び神経学的症状 1 報であった。

いずれの試験においても、暴露の把握方法として、生体試料（尿、歯又は血液）中のチアメトキサム濃度が測定されていた。

① 小児期発達遅延等との関連

日本において、2011 年 1 月～2014 年 3 月の「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に登録された妊婦とその生まれた子どものうち 8,538 組を対象に、妊婦の尿中のネオニコチノイド系農薬等濃度（妊娠初期及び中/後期）と生後 6 か月～4 歳における小児期の発達遅延（日本語版乳幼児発達検査スクリーニング質問票第 3 版（J-ASQ-3）を用いたカットオフ値による判定）との関連がベイズ統計を用いて検討された。

世帯年収及び母親の食品摂取量（茶、米、豆類、いも類、野菜類、果物類）について調整が行われたところ、チアメトキサム暴露と小児期の発達遅延との間に関連は認められなかった〔生後 6 か月時の意思疎通能力のオッズ比：1.00（妊娠第 1 三半期）、1.00（妊娠第 2、3 三半期）、95%CI（95%信用区間）：0.94～1.06（妊娠第 1 三半期）、0.89～1.01（妊娠第 2、3 三半期）等〕。

本研究では、スポット尿で測定されたネオニコチノイド系農薬の尿中濃度の再現性が乏しいこと、本研究結果が他集団でも再現される必要があること等の限界があると考えられた。（資料 69）

② 妊娠糖尿病との関連

中国武漢市において、2013 年 10 月～2017 年 10 月に最初の妊婦健診（妊娠 16 週以内）で尿サンプルが採取され、妊娠 24～28 週目に 75 g の経口ブドウ糖負荷試験を受けた妊婦 6,663 人のうち、妊娠糖尿病と診断された 519 人及び対照群として子供の性別及び母親の年齢（±2 歳）をマッチングした妊娠合併症のない健康な妊婦 519 人を対象に、尿中のチアメトキサム濃度と妊娠糖尿病との関連がコホート内症例対照研究により検討された。

母親の年齢、出産経験、学歴、妊娠前の BMI、妊娠中の雇用及び受動喫煙、

子供の性別⁵並びに採尿の季節について調整が行われたところ、尿中のチアメトキサム濃度と妊娠糖尿病との間に正の関連が認められた(オッズ比⁶: 1.42、95%CI: 1.26~1.61)。

本研究には、食事の情報が考慮されていないこと、チアメトキサムは尿中半減期が短く速やかに排泄されることから 1 時点のみの尿中のチアメトキサムの濃度は妊娠初期の暴露を代表していない可能性があること等の限界があると考えられた。(資料 70)

③ 小児の肥満との関連

中国山東省において、2010~2013 年に妊婦 773 人のコホートが設定され生まれた子供の 7 歳時調査において 380 人を対象に、尿中のチアメトキサム濃度と肥満との関連が横断研究により検討された。

母親の教育レベル、世帯月収、妊娠前 BMI、出産回数及び分娩方法並びに子供の性別、年齢及び尿中 Cre レベルについて調整が行われたところ、尿中のチアメトキサム濃度と肥満 (BMI z-スコア ≥ 85 パーセンタイル) 及び腹部肥満 (腹囲身長比 ≥ 0.5) との間に関連は認められなかった (肥満のオッズ比: 1.15、95%CI: 0.864~1.53、腹部肥満のオッズ比: 1.28、95%CI: 0.989~1.67)。

本研究には、横断研究のため因果に言及できないこと、スポット尿 1 回のみの測定であったこと、サンプルサイズが大きいことの限界があると考えられた。(資料 71)

④ ステロイドホルモンに対する影響との関連

タイ北部のチェンマイ県において、週 3 日以上農業に従事し、慢性疾患 (糖尿病、肝臓病、腎不全、がん等) や内分泌疾患歴がない、18~40 歳の男性 143 名を対象に、尿中のチアメトキサム濃度と血清中のステロイドホルモン濃度との関連が横断研究により検討された。

年齢、BMI、喫煙状況、アルコール摂取量、人種、学歴、個人所得、農業従事者としての総勤務年数、職業上の地位、田畑 (農場) での週当たりの労働日数及び 1 日当たりの労働時間、最後の農薬使用からサンプル採取までの期間、血液学的状態について調整が行われたところ、尿中のチアメトキサムとアンドロステンジオンとの間に正の関連 (調整済み回帰係数: 0.19、95%CI: 0.01~0.38) が、コルチゾン、デヒドロコルチコステロン及びデオキシコルチコステロンとの間に負の関連が認められた。

本研究には、チアメトキサムの使用方法や使用量についての情報が不足して

⁵ 通常マッチングされた変数は調整には用いられないが、文献どおりに記載した。

⁶ 尿中濃度 1 ng/mL の変化に対応するオッズ比。

いること、横断研究であるために因果関係が検証できないこと、ネオニコチノイドのヒトにおける半減期が短く尿中濃度が長期の暴露を適切に反映していない可能性があること、特にアンドロステンジオン及びテストステロンについては多変量回帰モデルにおける調整済み決定係数が比較的小さい等の限界があると考えられた。（資料 72）

⑤ 歯周病との関連

中国において、2019 年 5～10 月に虫歯でない第 3 大臼歯が収集された歯周病患者 71 人及び歯周病のない対照群 56 人を対象に、第 3 大臼歯中の農薬濃度と歯周病との関連が症例対照研究により検討された。

年齢及び性別について調整が行われたところ、第 3 大臼歯中のチアメトキサムの濃度と歯周病との正の関連は認められなかった（オッズ比：0.66、95%CI：0.28～0.89、trend $p>0.05$ ）。

本研究には、サンプルサイズが大きくないことの限界があると考えられた。（資料 73）

⑥ 母体の血液学的パラメータ及び新生児への影響との関連

中国広東省広州市において、職業上ネオニコチノイド系農薬に暴露したことがない健康な妊婦 95 人を対象に、2017 年に出産時の母体血清、臍帯血清中のチアメトキサム濃度と母体の血液学的パラメータ（血球、肝機能、腎機能）及び新生児の体格との関連が検討された。また、個々のネオニコチノイド系農薬の胎盤経由移行効率（TTE）⁷が計算され、化学構造及び特性が TTE に与える影響の比較が行われた。

母体血清中のチアメトキサム濃度と血液学的パラメータについては、年齢、居住地、出産方法を調整⁸、母体血清及び臍帯血清中のチアメトキサム濃度と新生児の体格については、子供の性別、在胎週数を調整⁹したところ、いずれも関連は認められなかった。また、ネオニコチノイド系農薬は胎盤移行を妨げられることなく通過できるという結果が得られた。チアメトキサムの TTE の中央値は 0.81 であった。

本研究には、サンプルサイズが大きくないこと及び網羅的解析にも関わらず多重検定の補正がされていないことの限界があると考えられた。（資料 74）

⁷ 臍帯血清及び母体血清サンプル中のネオニコチノイド系農薬の濃度比率から計算された。

⁸ 文献の表の脚注に「母の年齢、居住地、妊娠週数及び出産方法で調整」と異なる記載があるが、本文中の記載に従った。

⁹ 文献の表の脚注には「母の年齢、在胎週数及び子供の性別で調整」と異なる記載があるが、本文中の記載に従った。

⑦ 神経学的症状との関連

日本において、2012～2014年に原因不明の神経学的症状（手指の振戦、近時記憶障害等）を呈した患者 35 人（定型症状群 19 人、非定型症状群 16 人）¹⁰及び対照群として症状のないボランティア 50 人（性別・年齢でマッチング）を対象に、尿中のチアメトキサム濃度と神経学的症状との関連が症例対照研究により検討された。

神経学的症状を呈する患者では対照群に比べ、チアメトキサムの検出率が有意に高く〔定型症状群：6 例（31.6%）、非定型症状群：1 例（6.3%）、対照群：0 例（0.0%）〕、神経学的症状とチアメトキサム濃度に正の関連が示唆された。

本研究は、症例及び対照群の選定過程において選択バイアスが生じた可能性があること、ネオニコチノイド系農薬のヒトでの半減期が短く、スポット尿の濃度が長期的な暴露レベルを反映していない可能性があることの限界があると考えられた。（資料 75）

本部会ではこれらの疫学研究のうち、一部の研究では、チアメトキサム暴露と事象（疾病等）との間に統計学的に有意な正又は負の関連が認められたが、多重比較による偽陽性の懸念があること、暴露量の推定において用いられている情報が限定的であること、同一の事象（疾病等）についての研究が複数存在せず結果の一致性を確認できないこと等の理由から、いずれの事象（疾病等）についても、チアメトキサム暴露との因果関係に関する証拠は不十分であると判断した。

¹⁰ 文献では、手指の振戦及び近時記憶障害があり、かつ頭痛、全身倦怠感、動悸／胸痛、腹痛、筋肉痛／筋力低下／痙攣又は咳の 6 つ自覚症状のうち 5 つ以上の症状を呈した患者は定型症状群、それ以外の患者は非定型症状群に分類された。

3.2.2 その他の情報（中毒事例）

ヒトにおける中毒事例（吸入暴露）で認められた影響等について、表 6 に示されている。（資料 76）

表 6 ヒトにおける中毒事例（吸入暴露）で認められた影響等

No.	患者情報	暴露情報	認められた影響等
1	60 歳代男性、害虫駆除業者（日本） ・10 年以上のチアメトキサム使用歴 ・毎年春と夏に大量のネオニコチノイド使用	職業上の暴露直後の濃度 血中：0.42 µg/L 尿中：5.43 µg/L 職業上の暴露 7 日以上経過後の血中及び尿中濃度 血中：0.051 µg/L 尿中：0.12 µg/L 汗、清潔な普段着、未使用の作業着及び持続陽圧呼吸用ヘッドギアからのチアメトキサム検出量 103、85、21、4.4 µg/L	30 日間の微熱と 7 日間の頭痛及び腹痛で来院。1 年前には口腔粘膜(主に舌と唇)に灼熱痛。5 年間毎年夏に微熱と著しい発汗を経験。側頭部及び後頭部に毛包炎(毛包周囲膿疱を伴う紅斑性丘疹)、手指の姿勢時振戦が認められた。 患者は対症療法を受け、使用中のガスマスクが著しく汚れていたため、新しいガスマスクと適切な防護措置が指示された。 30 日間の追跡調査で発熱、頭痛及び腹痛は回復し、150 日の追跡調査後、殺虫剤の使用は中止された。持続陽圧呼吸用ヘッドギアの変更に後、毛包炎は改善した。270 日の追跡調査では口腔感覚異常と手指の姿勢時振戦のみが認められ、更に 1 年後に症状は消失した。

3.2.3 その他の情報（バイオモニタリング）

ヒトにおける動態（バイオモニタリング）関連の論文として、5 報についてその概要を表 7 にまとめた。まとめるにあたり、欧州食品安全機関（EFSA）で採用されているバイオモニタリング試験の信頼性評価基準^{11 12}に基づき、信頼性を評価し、スコア 2 以下を目安とした。

提出された論文では、いずれも健康事象との関連は報告されていないこと、農薬使用者の農薬使用記録が明らかな研究がなく、個々の被験者について暴露量と尿中濃度との関連性を解析するには情報が不十分であることから、現時点では報告された健康事象（3.2.1）と統合して AOEL、AAOEL の設定に資する解析を行うことは困難であると考えられた。

リスク評価の観点からは、思春期である 10 歳代のデータが含まれていないという限界はあるが、一般的な生活環境における 5 つのバイオモニタリング試験で検出されたヒト尿中濃度（中央値及び 95%タイル値）から推定した体内暴露量¹³はそれぞれ AOEL の 2.6%未満及び AAOEL の 0.03%未満であった。ラット体内動態試験の結果（血液/臓器中濃度比）を活用して、バイオモニタリング試験でのヒトにおける尿中濃度から臓器中濃度を推定し、*in vitro* 毒性試験の影響濃度との比較を実施した試験（3.1⑤）も提出されたが、標的部位での感受性のヒト/動物間種差、代謝や臓器分布のヒト/動物間種差、臓器内での移行、単回投与での動態比較であることなどの不確実性があり、長期暴露も含めたヒト健康リスクについてより信頼性の高い評価を実施する上では、更なる知見の集積が必要であると考えられた。

¹¹ EFSA PPR Panel, 2017. Scientific Opinion of the PPR Panel on the follow-up of the findings of the External Scientific Report ‘Literature review of epidemiological studies linking exposure to pesticides and health effects’. EFSA Journal 15(10), 5007, 101 pp. <https://doi.org/10.2903/j.efsa.2017.5007>

¹² RPA, HSL, IEH, 2017. Human biomonitoring data collection from occupational exposure to pesticides – Final Report, EFSA supporting publication 2017:EN-1185. 207pp

¹³ 経口吸収率(Fabs)を 40%と仮定

表 7 チアメトキサムのヒトにおける動態研究

研究	被験者	分析試料	報告された有効成分及び代謝物に関するデータ
Osaka, et al (2016) (資料77)	都市郊外在住小児223人 (3歳；男性108人、女性115人) (日本)	・尿試料 (夏期(2012)及び冬期(2013)に尿を採取)	・チアメトキサムの検出率は25.1% ・尿中濃度：チアメトキサム ：<LOD (<0.22µg/L)(中央値) ：0.22 ng/mL (75%ile値) ：0.92 ng/mL (95%ile値) ：3.71 ng/mL (最大値) ・冬季よりも夏季の方が有意に高い傾向。食品消費パターンや害虫駆除としての殺虫剤の使用を要因として指摘 ・EFSA信頼性基準スコア：2
Ueyama, et al (2015) (資料78)	都市在住成人17～20人/年、計95名 (45～75歳；女性) (農薬関連の職業歴なし) (日本)	・尿試料 (1994、2000、2003、2009、2011年に17～20名ずつ採取)	・チアメトキサムの尿中検出率は2000年から2011年にかけて有意に上昇(ピアソンの相関係数、$r>0.93$、$p<0.05$)。 ・国内出荷量と尿中検出率との関連を解析($r=0.88$、$p=0.05$) ・尿中濃度：チアメトキサム ：0.57 µg/gクレアチニン (2011年、50%ile値) ・スポット尿のみの分析 ・EFSA信頼性基準スコア：2
Wang, et al (2020) (資料79)	成人129人 ・都市部(65人) ・農村部(64人) ・20歳以上 (中国)	・尿試料 (秋：早朝尿を3日間毎日採取(279検体)、冬：早朝尿を1日採取(129検体))	・チアメトキサムは尿試料の90.7%に検出 ・尿中濃度：チアメトキサム ：0.21 ng/mL (中央値) ：0.55 ng/mL (平均値) ：0.44 ng/mL (75%ile値) ：1.77 ng/mL (95%ile値) ・農村部で使用された農薬量は報告されていない ・冬よりも秋に尿中濃度(中央値)は有意に高い ・農村部よりも都市部の方が有意に高い。食品消費パターンや屋内での殺虫剤の使用を要因として指摘 秋：都市 0.26 ng/mL > 農村 0.14 ng/mL 冬：都市 0.19 ng/mL > 農村 0.14 ng/mL

			・ 10種のネオニコチノイドの尿中濃度に毒性比を考慮して合算した1日平均摂取量(中央値)を算出：0.17 µg/kg体重/日 ・ EFSA信頼性基準スコア： 2
Oya, et al (2021) (資料80)	都市郊外在住小児1036人 (16～23か月；男性530人、女性506人) (日本)	・ 尿試料 (2015年～2016年に採取)	・ チアメトキサムの検出率は41.1% ・ 尿中濃度：チアメトキサム ： 0.43 µg/L (75%ile値) ： 1.1 µg/L (95%ile値) ： 222 µg/L (最大値) (LOD (0.06) – 222) ・ 夜から翌朝までの蓄尿を分析 ・ 高暴露児の要因となった因子は調査日の食事。芝生での遊びや虫よけの使用など、生活行動も暴露影響として考察 ・ EFSA信頼性基準スコア： 2
Anai A, et al (2021) (資料81)	都市在住妊婦109人 (20～40歳：2014～2016年に出産) (日本)	・ 尿試料 (妊娠初期、中期及び後期に採取)	・ チアメトキサムの検出率は83.4% ・ 尿中濃度：チアメトキサム ： 7.40 µg/g creatinine (50%ile値) ： 9.81 µg/g creatinine (75%ile値) ： 72.0 µg/g creatinine (最大値) (LOD (0.43) – 72) ・ 食品摂取量との関連が報告されているが、食品中の農薬残留濃度は測定されていない。 ・ スポット尿のみの分析 ・ EFSA信頼性基準スコア： 2

Ⅲ. 農薬使用者暴露許容量 (AOEL)

急性毒性試験及び 28 日間反復経皮投与毒性試験の結果において、経皮又は吸入経路特異的な毒性は見られなかったこと及び農薬としての使用方法から、チアメトキサムの農薬使用者暴露許容量 (AOEL) の設定に当たっては、経皮又は吸入経路特異的な毒性を考慮する必要はないと判断した。また、疫学研究については、チアメトキサムの農薬使用を通じた暴露を適切に特定し健康影響との関連を評価できる知見は得られなかった。よって経口投与による短期毒性試験、生殖・発生毒性試験及び神経毒性試験の結果に基づき AOEL を設定する (表 9)。

各試験で得られたチアメトキサムの無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた 2 世代繁殖毒性試験①の 0.61 mg/kg 体重/日であったが、ラットを用いた 2 世代繁殖毒性試験②の無毒性量は 1.2 mg/kg 体重/日であり、この差は用量設定の違いによると考えられ、ラットにおける無毒性量は 1.2 mg/kg 体重/日が妥当であると考えられ、これを AOEL の設定根拠とすることが妥当と判断した。

なお、マウスを用いた 18 か月間発がん性試験において、500 ppm 以上投与群 (雄：63.8 mg/kg 体重/日、雌：87.6 mg/kg 体重/日) の雌雄で肝細胞腺腫の増加が認められたが、生体において問題となる遺伝毒性が認められなかったことから発生機序は遺伝毒性によるものとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。AOEL の設定根拠試験であるラットを用いた 2 世代繁殖毒性試験の無毒性量 1.2 mg/kg 体重/日は、腫瘍の発生頻度の有意な増加が認められた投与量 (500 ppm、雄：63.8 mg/kg 体重/日、雌：87.6 mg/kg 体重/日) より十分に小さく、増加が認められなかった投与量 (20 ppm、雄：2.63 mg/kg 体重/日、雌：3.68 mg/kg 体重/日) よりも小さいことから、発がん性に関しては、十分なマージンが確保されていると判断した。

また、最小の無毒性量に近い投与量におけるラットを用いた動物代謝試験の経口吸収率は、ラットを用いた胆汁中排泄試験の 0.5 mg/kg 体重投与群の 91.2～95.2%であり (表 8)、80%を超えることから、AOEL の設定に当たっては、経口吸収率による補正は必要ないと判断した。なお、尿及び糞中排泄試験から算出した経口吸収率も表 8 に合わせて示したが、推定した経口吸収率はその結果とも齟齬はなかった。

表 8 チアメトキサムをラットに単回経口投与した場合の経口吸収率 (%)

標識体	[thi- ¹⁴ C]チアメトキサム					[oxa- ¹⁴ C]チアメトキサム				
投与量 (mg/kg 体重)	0.5			100		0.5			100	
性別	雄	雌	雄 ^b	雄	雌	雄	雌	雄 ^{a,b}	雄	雌
経口吸収率 ^c	96.5	97.2	91.2	96.0	97.3	94.0	97.6	95.2	97.5	100.2
総回収率	101.7	100.6	96.0	101.1	101.7	99.1	101.6	100.7	103.2	104.2

^a : 数値は 4 匹の平均値

^a を除く各数値は 5 匹の平均値

^b : 胆汁中排泄試験、投与後 48 時間の値

^b を除く試験は尿及び糞中排泄試験で各数値は投与後 168 時間の値

以上の結果から、ラットを用いた 2 世代繁殖毒性試験の無毒性量 1.2 mg/kg 体重/日を安全係数 100 で除した 0.012 mg/kg 体重/日を農薬使用者暴露許容量 (AOEL) と設定した。

AOEL

0.012 mg/kg 体重/日

(AOEL 設定根拠試験)	2 世代繁殖毒性試験②
(動物種)	ラット
(期間)	2 世代
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	1.2 mg/kg 体重/日
(毒性所見)	雄：精子数減少
(安全係数)	100
(経口吸収率)	補正しない

< 参考 >

< EC (2006 年) >

(AOEL 設定根拠試験)	90 日間反復経口投与毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	90 日間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	8.23mg/kg 体重/日
(毒性所見)	PT 延長
(安全係数)	100
(経口吸収率)	100 %

AOEL 0.08 mg/kg 体重/日

Thiamethoxam SANCO/10390/2002 - rev. final 14 July 2006

(URL : <https://ec.europa.eu/food/plant/pesticides/eu-pesticides-database/start/screen/active-substances/details/796>)

表 9 AOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/ 日)	LOAEL (mg/kg 体重/ 日)	AOEL 設定に関連する エンドポイント ¹⁾
ラット	28 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 12)	0、100、1,000、2,500、 10,000ppm 雄：0、8.04、81.7、199、 711 雌：0、8.69、89.3、211、 763	雄：81.7 雌：211	雄：199 雌：763	雄：小葉中心性肝細胞肥大及び甲状腺 腺ろ胞上皮肥大 雌：小葉中心性肝細胞肥大等
	90 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 11)	0、25、250、1,250、2,500、 5,000 ppm 雄：0、1.74、17.6、84.9、168、 329 雌：0、1.88、19.2、92.5、182、 359	雄：17.6 雌：92.5	雄：84.9 雌：182	雄：体重増加抑制等 雌：肝リンパ球組織球浸潤等
	90 日間 反復経口 投与神経毒 性 GLP (資料 57)	雄：0、10、30、500、1,500ppm 雌：0、10、30、1,000、3,000 ppm 雄：0、0.7、1.9、31.8、95.4 雌：0、0.7、2.1、73.2、216	雄：95.4 雌：216	雄：－ 雌：－	毒性所見なし 反復経口投与神経毒性は認められない
	発達神経毒 性 GLP (資料 58)	0、50、400、4,000 ppm 妊娠期間 0、4.3、34.5、299 哺育期間 0、8.0、64.0、594	母動物、児動 物：34.5	母動物、児動 物：299	母動物：体重増加抑制等 児動物：低体重等 発達神経毒性は認められない
	2 世代 繁殖毒性① GLP (資料 49)	0、10、30、1,000、2,500 ppm P 雄：0、0.61、1.84、63.3、 158 P 雌：0、0.8、2.37、76.2、 202 F ₁ 雄：0、0.69、2.07、68.9、 181 F ₁ 雌：0、0.88、2.63、88.2、 236	親動物 P 雄：0.61 P 雌：76.2 F ₁ 雄：0.69 F ₁ 雌：88.2 児動物 P 雄：1.84 P 雌：2.37 F ₁ 雄：2.07 F ₁ 雌：2.63	親動物 P 雄：1.84 P 雌：202 F ₁ 雄：2.07 F ₁ 雌：236 児動物 P 雄：63.3 P 雌：76.2 F ₁ 雄：68.9 F ₁ 雌：88.2	親動物 雄：精細管萎縮 雌：体重増加抑制 児動物：体重増加抑制 繁殖能に対する影響は認められない
	2 世代 繁殖毒性② GLP (資料 51)	0、20、50、1,000、2,500 ppm P 雄：0、1.2、3.0、61.7、 156 P 雌：0、1.7、4.3、84.4、 209 F ₁ 雄：0、1.5、3.7、74.8、 192 F ₁ 雌：0、2.1、5.6、110、 277	親動物 P 雄：1.2 P 雌：84.4 F ₁ 雄：1.5 F ₁ 雌：110 児動物 P 雄：156 P 雌：209 F ₁ 雄：192 F ₁ 雌：277	親動物 P 雄：3.0 P 雌：209 F ₁ 雄：3.7 F ₁ 雌：277 児動物：－	親動物 雄：精子数減少 雌：肝補正重量増加 児動物：毒性所見なし 繁殖能に対する影響は認められない
	発生毒性	0、5、30、200、750 (妊娠 7～15 日投与)	母動物：30	母動物：200	母動物：体重増加抑制等

	GLP (資料 52)		児動物：200	児動物：750	胎児：低体重等 催奇形性は認められない
マウス	18 か月間 発がん性試験 GLP (資料 25)	0、5、20、500、1,250、 2,500 ppm 雄：0、0.65、2.63、63.8、 162、354 雌：0、0.89、3.68、87.6、 215、497	雄：2.63 雌：3.68	雄：63.8 雌：87.6	雄雌：肝細胞腺腫増加等 (雌雄で肝細胞腺腫及び肝細胞癌の増加)
ウサギ	発生毒性 GLP (資料 54)	0、5、15、50、150 (妊娠 7～19 日投与)	母動物：15 胎 児：50	母動物：50 胎 児：150	母動物：体重増加抑制等 胎 児：低体重等 催奇形性は認められなかった。
イヌ	90 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 13)	0、50、250、1,000、 2,500/2,000 ppm 雄：0、1.58、8.23、32.0、54.8 雌：0、1.80、9.27、33.9、50.5	雄：8.23 雌：9.27	雄：32.0 雌：33.9	雄：Glu 増加等 雌：PT 延長等
	1 年間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 15)	0、25、150、750、 1,500 ppm 雄：0、0.70、4.05、21.0、42.0 雌：0、0.79、4.49、24.6、45.1	雄：4.05 雌：4.49	雄：21.0 雌：24.6	雌雄：BUN 増加等

ー：最小毒性量は設定できなかった。

1)：備考には最小毒性量で認められた毒性所見の概要を示す。

IV. 急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL)

チアメトキサムの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響(表 10)に対する無毒性量のうち最小値は、ウサギを用いた発生毒性試験の無毒性量 50 mg/kg 体重/日であり、得られた毒性所見を検討した結果、これを AAOEL の設定根拠とすることが妥当と判断した。

ラットを用いた動物代謝試験では、胆汁中排泄試験は 100 mg/kg 体重投与群で実施されていないが、尿及び糞中排泄試験において経口吸収率には用量による明確な差は認められず、いずれの投与群においても経口吸収率は 80%以上であった(表 7)。

以上の結果から、ウサギを用いた発生毒性試験の無毒性量 50 mg/kg 体重/日を根拠として、AOEL と同様に経口吸収率による補正は必要ないと判断し、安全係数 100 で除した 0.50 mg/kg 体重を急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL) と設定した。

AAOEL	0.50 mg/kg 体重
(AAOEL 設定根拠試験)	発生毒性試験
(動物種)	ウサギ
(期間)	妊娠 7～19 日
(投与方法)	強制経口
(無毒性量)	50 mg/kg 体重/日
(毒性所見)	母動物：体重減少及び摂餌量減少
(安全係数)	100
(経口吸収率)	補正しない

< 参考 >

< EC (2006 年) >

AAOEL

未評価

Thiamethoxam SANCO/10390/2002 - rev. final 14 July 2006

(URL : <https://ec.europa.eu/food/plant/pesticides/eu-pesticides-database/start/screen/active-substances/details/796>)

表 10 AAOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)	無毒性量及び AAOEL に関連するエンドポイント ¹⁾ (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)
ラット	急性経口毒性 GLP (資料 4)	0、900、1,500、2,300、3,800、 6,000	雌雄：－ 雌雄：眼瞼下垂（投与当日）、体重増加抑制（投与 1～2 日後まで）
	一般薬理 (一般状態) 非 GLP (資料 60)	0、500、1,000、2,000	雄：－ 雄：眼瞼の狭小
	一般薬理 (正常体温) 非 GLP (資料 60)	0、250、500、1,000	雄：500 雄：体温低下
	一般薬理 (血圧) 非 GLP (資料 60)	0、250、500、1,000	雄：500 雄：血圧低下
	急性神経毒性 GLP (資料 56)	0、100、500、1,500	雌雄：100 雌雄：自発運動量の減少等(投与後 2～3 時間)
	発生毒性 GLP (資料 52)	0、5、30、200、750	母動物：200 母動物：体重減少/増加抑制(妊娠 6～21 日)及び摂餌量減少(妊娠 6～11 日及び 11～16 日)等
マウス	急性経口毒性 GLP (資料 5)	0、500、700、1,000、1,400、2,000	雌雄：－ 雌雄：自発運動の低下（投与当日） 雌：体重増加抑制（投与 1 日後）
	一般薬理 (一般状態) 非 GLP (資料 60)	0、250、500、1,000	雄：250 雄：自発運動の抑制
ウサギ	発生毒性 GLP (資料 54)	0、5、15、50、150	母動物：50 母動物：体重減少(妊娠 7～12 日)及び摂餌量減少(妊娠 7～12 日)

－：無毒性量は設定されなかった。

¹⁾：最小毒性量又は最小作用量で認められた主な毒性所見を示す。

V. 暴露量の推計

1. 経皮吸収試験

(1) 経皮吸収率の推定

(ア) ^{14}C 標識チアメトキサムを用いたヒト *in vitro* 経皮吸収試験①（資料 82、GLP）

調製方法：[^{14}C]チアメトキサム、非標識チアメトキサム及び製剤白試料を混合して250 g ai/kg のチアメトキサム製剤を調製した。製剤が固体であるため、適切に皮膚に適用できるようほぼ同量の純水を加えてペースト状に調製した（製剤）。[^{14}C]チアメトキサム及び製剤白試料を混合後、水で希釈し2.5 g ai/L に調製した（100倍希釈液）。100倍希釈液をさらに水で希釈し、0.167 g ai/L 及び0.0625 g ai/L になるよう調製した（1,497倍希釈液及び4,000倍希釈液）。

採取試料：静置型拡散セル装置のレセプター室をレセプター液で満たし、ヒト皮膚試料を接触させて、上記の製剤、100倍希釈液、1,497倍希釈液及び4,000倍希釈液を皮膚試料の表面に均一に適用した。処理6時間後に皮膚表面を洗浄剤で洗い、綿棒で拭き取り、表面に残存する放射性物質を回収した。処理24時間後に皮膚試料を採取し、テープにより角質層中の放射性物質を回収し（テープストリップ）、その濃度及び回収率等を測定した。また、レセプター液を経時的に採取し、皮膚を透過した放射性物質の濃度を測定した。

試験例数：製剤、100倍希釈液及び1,497倍希釈液については、皮膚の健全性の基準（経皮電気抵抗性（TEER） $>10.9\text{ k}\Omega$ ）を満たした8例、4,000倍希釈液については当該基準を満たした16例で実施された。

試験結果：製剤、100倍希釈液、1,497倍希釈液及び4,000倍希釈液を用いた経皮吸収試験の結果の概要を表11に示す。

表11：製剤、100倍希釈液、1,497倍希釈液及び4,000倍希釈液の経皮吸収^a

	製剤 (1 : 1)		希釈液1 (1 : 100)		希釈液2 (1 : 1,497)		希釈液3 (1 : 4,000)	
皮膚試料数	8		8		8		16	
設定濃度 [mg/mL]	250 [g/kg]		2.5 [g/L]		0.167 [g/L]		0.0625 [g/L]	
設定投与量 [$\mu\text{g}/\text{cm}^2$]	1,250		25		1.67		0.625	
平均実投与量 [$\mu\text{g}/\text{cm}^2$]	1,346		25.5		1.78		0.636	
回収率 [%]	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
吸収率から除外可能な量								
6、24時間後の皮膚試料洗浄液	102.39	1.48	95.07	1.37	94.28	2.00	94.32	2.98
ドナーチャンバー洗浄液	0.09	0.07	0.22	0.22	0.07	0.09	0.11	0.07
皮膚試料に関連する量								
テープストリップ1-2	0.07	0.10	0.12	0.09	0.09	0.08	0.12	0.10
テープストリップ3-20	0.06	0.06	0.85	0.44	1.10	0.73	1.27	0.84
皮膚試料中残渣量	0.05	0.05	1.25	0.47	1.80	1.14	1.85	1.14
吸収量								
レセプター液	0.02	0.01	0.42	0.13	0.47	0.42	0.65	0.46
レセプターチャンバー洗浄液	N/A	N/A	0.03	0.02	0.05	0.03	0.04	0.04
総回収率	102.58	1.60	97.97	1.74	97.85	1.69	98.32	1.88
試料採取期間の半分の期間における 透過率($t_{0.5}$)の信頼下限値 (LLC of $t_{0.5}$)	52.65	23.07	68.62	4.26	64.72	7.98	59.76	8.11
吸収は完全か否か	いいえ		いいえ		いいえ		いいえ	
$t_{0.5} \leq 75\%$ のときの吸収量	0.10	0.11	2.56	0.80	3.41	1.70	3.81	1.82
$t_{0.5} > 75\%$ のときの吸収量	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
補正吸収量	0.10	0.11	2.56	0.80	3.41	1.70	3.81	1.82
最終吸収量	0.187		3.227		4.839		4.775	
最終吸収量 (丸め値)	0.19		3.2		4.8		4.8	

^a : BfR の経皮吸収率計算シートで解析

N/A : 実施せず

ヒト *in vitro* 経皮吸収率の推定結果

¹⁴C 標識チアメトキシサムを用いたヒト *in vitro* 経皮吸収試験結果を農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき評価した結果、以下のようにチアメトキシサム水和剤 (250 g ai/kg 製剤) の経皮吸収率を推定した。

① 角質層中残渣量 (テープストリップ)

製剤、100 倍希釈液、1,497 倍希釈液及び 4,000 倍希釈液いずれも、試料採取期間は 24 時間であり、被験物質処理後 12 時間のレセプター液への透過率の信頼下限値 (LLC of $t_{0.5}$) は 75 %未満であったことから、2 番目までのテープストリップ由来の被験物質を経皮吸収量から除外し、3 番目以降のテープストリップ由来の被験物質を経皮吸収量として加えて経皮吸収率を算出した。

② 試験の回収率による補正

製剤、100 倍希釈液、1,497 倍希釈液及び 4,000 希釈液のいずれも平均回収率が 95 %以上であったことから、回収率による各吸収率の補正は行わなかった。

③ サンプル間の変動

製剤、100 倍希釈液及び 1,497 倍希釈液の皮膚試料数は 8 であったことから、係数 0.84 を標準偏差に乘じ経皮吸収率を算出した。その結果、製剤の経皮吸収率は 0.187%、100 倍希釈液は 3.227 %、1,497 倍希釈液の経皮吸収率は 4.839 %であった。

また、4,000 倍希釈液の皮膚試料数は 16 であったことから、係数 0.53 を標準偏差に乘じ経皮吸収率を算出した。その結果、4,000 倍希釈液の経皮吸収率は 4.775 %であった。

以上から、本試験に用いたチアメトキサム水和剤 (250 g ai/kg 製剤) の経皮吸収率は、製剤 (250 g ai/kg) は 0.19 %、100 倍希釈液 (2.5 g ai/L) は 3.2 %、1,497 倍希釈液 (0.167 g ai/L) は 4.8 %、4,000 倍希釈液 (0.0625 g ai/L) は 4.8 %と推定した。

また、試験に用いた製剤は、固体製剤と判断した。

(イ) ^{14}C 標識チアメトキサムを用いたラット *in vivo* 経皮吸収試験② (資料 83、GLP)

調製方法: ^{14}C チアメトキサム、非標識チアメトキサム及び製剤白試料を混合して 350 g ai/L になるように調製した (製剤)。また、希釈液については、 ^{14}C チアメトキサム、非標識チアメトキサム及び製剤白試料を混合後、水で希釈して 20 g ai/L になるように調製した (17.5倍希釈液)。

採取試料: 雄ラットの背部の皮膚に上記の製剤及び17.5%希釈液を処理期間6時間で適用した。適用から6、24、72及び168時間の試験群 (一群雄4匹) で試験が実施された。適用から6時間後に全ての試験群の動物の適用部位を、洗剤を塗布した綿棒で洗浄し、皮膚表面に残存する放射性物質を回収した。各試験群は、適用から6、24、72及び168時間に安楽死させ、被覆を除去し、血液、皮膚等を採取し、適用部皮膚からテープストリップにより角質層を除去した。カーカスを含む全ての試料について、放射性物質の濃度及び回収率等を測定した。尿及び糞は

投与6時間後、24時間後、それ以降は24時間ごとに採取し、放射性物質の濃度及び回収率等を測定した。

試験例数：製剤及び17.5倍希釈液について、適用から6、24、72及び168時間のいずれの試験群においても、雄ラット4匹で試験が実施された。

試験結果：被験物質の適用から168時間の試験群における製剤及び17.5倍希釈液を用いた経皮吸収試験の結果の概要を表12に示す。

表12：製剤及び17.5倍希釈液の経皮吸収（ラット）^a

	製剤		希釈液 (1:17.5)	
供試動物数	4		4	
設定濃度 [mg/mL]	350		20	
設定投与量 [μg/cm ²]	3,500		200	
平均実投与量 [μg/cm ²]	3,724		197	
回収率 [%]	平均	SD	平均	SD
<u>吸収率から除外可能な量</u>				
暴露後の皮膚試料洗浄液	93.45	1.09	89.40	2.17
被験物質適用保護装置の洗浄液	0.16	0.04	0.76	1.22
拭き取り	N/A	N/A	N/A	N/A
<u>皮膚試料に関連する量</u>				
テープストリップ1-2	0.31	0.04	4.19	0.34
テープストリップ3-x	N/A	N/A	N/A	N/A
暴露部位（皮膚）の残存量	0.01	0.00	0.02	0.03
<u>吸収量</u>				
尿中排泄量	0.10	0.04	0.97	0.80
糞中排泄量	0.01	0.01	0.08	0.06
呼気中の量	N/A	N/A	N/A	N/A
カーカス	0.02	0.00	0.03	0.02
ケージ洗浄液	0.01	0.00	0.01	0.00
総回収率	94.05	1.13	95.46	1.04
試料採取期間の半分の期間における吸収率 (t _{0.5})	94.39		61.43	
吸収は完全か否か	はい		いいえ	
サンプリング期間は24時間以上か	はい		はい	
t _{0.5} ≤ 75%のときの吸収量	N/A	N/A	1.10	0.90
t _{0.5} > 75%かつ期間24h以上のときの吸収量	0.14	0.05	N/A	N/A
補正吸収量	0.14	0.05	1.10	0.90
最終吸収量	0.2159		2.549	
最終吸収量（丸め値）	0.22		2.5	

^a：BfRの経皮吸収率計算シートで解析。LOQ未満の測定値はLOQの1/2の値、NDは0%とした。

N/A：実施せず

ラット *in vivo* 経皮吸収率の推定結果

¹⁴C 標識チアメトキサムを用いたラット *in vivo* 経皮吸収試験結果を農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき評価した結果、以下のように提出されたチアメトキサム水和剤（350 g ai/L 製剤）の経皮吸収率を推定した。

① 角質層中残渣量（テープストリップ）

試料採取期間は 168 時間であるが、半分の期間である被験物質処理後 84 時間に試料を採取していないため、被験物質処理後 72 時間の試料を T0.5、被験物質処理後 168 時間の試料を T1 として試料採取期間の半分の期間内における吸収率($t_{0.5}$)を計算した。製剤における $t_{0.5}$ は 75 % 以上、17.5 倍希釈液における $t_{0.5}$ は 75 % 未満であったが、本試験では 3 枚目以降のテープストリップを採取していないため、製剤及び 17.5 倍希釈液共に全てのテープストリップ由来の被験物質を経皮吸収量から除外した。

② 試験の回収率による補正

OECD ガイダンス No.156 (2022) の規定に準拠し、当該試験は *in vivo* 試験であり、製剤及び 17.5 倍希釈液の平均回収率はそれぞれ 90% 以上であったことから適切に回収されたと判断し、回収率による各吸収率の補正は行わなかった。

③ サンプル間の変動

製剤及び 17.5 倍希釈液の皮膚試料数は 4 であったことから係数 1.6 を標準偏差に乘じ平均値に加算して経皮吸収率を算出した。その結果、製剤は 0.2159%、17.5 倍希釈液は 2.549% であった。

以上から、本試験に用いたチアメトキサム水和剤（350 g ai/L 製剤）のラット *in vivo* 経皮吸収率は 0.22%、17.5 倍希釈液のラット *in vivo* 経皮吸収率は 2.5% と推定した。

また、試験に用いた製剤は、成分に有機溶媒を含有しないため、液体製剤（水ベース）と判断した。

（ウ）暴露評価に用いる経皮吸収率

① ビートルコップ顆粒水和剤

申請されたビートルコップ顆粒水和剤（チアメトキサム 25.0 % 水和剤）

は経皮吸収試験①に用いた製剤と組成が同じであることから、チアメトキサムのリスク評価に用いる経皮吸収率は農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 13 のとおり適用する。

表 13：暴露評価に用いる経皮吸収率

申請された使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1倍)	0.19	経皮吸収試験①の製剤の経皮吸収率を利用。
400倍	4.8	経皮吸収試験①の1,497倍希釈液の経皮吸収率を利用
800倍	4.8	
2,000倍	4.8	経皮吸収試験①の4,000倍希釈液の経皮吸収率を利用
4,000倍	4.8	

② アクタラ顆粒水溶剤

申請されたアクタラ顆粒水溶剤 (チアメトキサム 10.0 %水溶剤) は経皮吸収試験①に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤であるアクタラ顆粒水溶剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 14 に示す (資料 84～87、GLP)。

申請製剤の皮膚刺激性及び皮膚感作性が試験製剤と同等であること及び申請製剤の剤型が試験製剤の剤型と同等であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、チアメトキサム水和剤 (250 g ai/kg 製剤) を用いたチアメトキサムの経皮吸収試験①の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 14：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

試験	試験製剤	申請製剤
	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	固体製剤	固体製剤

アクタラ顆粒水溶剤のチアメトキサムのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 15 のとおり推定した。

なお、申請製剤は経皮吸収試験①に用いた製剤よりも有効成分含有量が少ないことから、経皮吸収試験①の製剤の試験結果を用いることができない。このため、製剤の経皮吸収率は固体製剤のデフォルト値 (製剤 10 %) を利用することが適当であると判断した。

表 15：暴露評価に用いる経皮吸収率

申請された使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率(%)	算出根拠
製剤 (1倍)	10	固体製剤のデフォルト値を利用。
10倍	3.2	経皮吸収試験①の100倍希釈液の経皮吸収率を利用。
32倍	3.2	
50倍	4.8	
100倍	4.8	経皮吸収試験①の1,497倍希釈液の経皮吸収率を利用。
750倍	4.8	
1,000倍	4.8	
2,000倍	4.8	経皮吸収試験①の1,497倍及び4,000倍希釈液の経皮吸収率2点を用いた線形外挿法により算出
3,000倍	4.8	
3,333倍	4.8	

③ リーズン顆粒水和剤

申請されたリーズン顆粒水和剤（チアメトキサム 10.0 %水和剤）は経皮吸収試験①に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤であるリーズン顆粒水和剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 16 に示す（資料 84、85、88、89、GLP）。

申請製剤の皮膚刺激性及び皮膚感作性が試験製剤と同等であること及び申請製剤の剤型が試験製剤の剤型と同等であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、チアメトキサム水和剤（250 g ai/kg 製剤）を用いたチアメトキサムの経皮吸収試験①の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 16：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

試験	試験製剤	申請製剤
	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	固体製剤	固体製剤

リーズン顆粒水和剤のチアメトキサムのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 17 のとおり推定した。

なお、申請製剤は経皮吸収試験①に用いた製剤よりも有効成分含有量が少ないことから、経皮吸収試験①の製剤の試験結果を用いることができない。このため、製剤の経皮吸収率は固体製剤のデフォルト値（製剤 10 %）を利用することが適当であると判断した。

表 17：暴露評価に用いる経皮吸収率

申請された使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1倍)	10	固体製剤のデフォルト値を利用
40倍	3.2	経皮吸収試験①の100倍希釈液の経皮吸収率を利用
750倍	4.8	経皮吸収試験①の4,000倍希釈液の経皮吸収率を利用
2,000倍	4.8	経皮吸収試験①の1,497倍希釈液及び4,000倍希釈液の経皮吸収率2点を用いた線形外挿法により算出
3,000倍	4.8	経皮吸収試験①の1,497倍希釈液及び4,000倍希釈液の経皮吸収率2点を用いた線形外挿法により算出

④ 花華やか顆粒水溶剤

申請された花華やか顆粒水溶剤（チアメトキサム 2.5 %水和剤）は経皮吸収試験①に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤である花華やか顆粒水溶剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 18 に示す（資料 84、85、90、91、GLP）。

申請製剤の皮膚刺激性及び皮膚感作性が試験製剤と同等であること及び申請製剤の剤型が試験製剤の剤型と同等であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、チアメトキサム水和剤（250 g ai/kg 製剤）を用いたチアメトキサムの経皮吸収試験①の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 18：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

試験	試験製剤	申請製剤
	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	固体製剤	固体製剤

花華やか顆粒水溶剤のチアメトキサムのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 19 のとおり推定した。

なお、申請製剤は経皮吸収試験①に用いた製剤よりも有効成分含有量が少ないことから、経皮吸収試験①の製剤の試験結果を用いることができない。このため、製剤の経皮吸収率は固体製剤のデフォルト値（製剤 10 %）を利用することが適当であると判断した。

表 19：暴露評価に用いる経皮吸収率

申請された使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1倍)	10	固体製剤のデフォルト値を利用
500倍	4.8	経皮吸収試験①の1,497倍希釈液及び4,000倍希釈液の経皮吸収率2点を用いた線形外挿法により算出

⑤ ジュリボフロアブル

申請されたジュリボフロアブル（チアメトキサム 17.5 %水和剤）は経皮吸収試験②に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤であるジュリボフロアブルの皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 20 に示す（資料 92～95、GLP）。

申請製剤の皮膚刺激性及び皮膚感作性が試験製剤と同等であること及び申請製剤の剤型が試験製剤の剤型と同等であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、チアメトキサム水和剤（350 g ai/L 製剤）を用いたチアメトキサムの経皮吸収試験②の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 20：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

試験	試験製剤	申請製剤
	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	液体製剤（水ベース）	液体製剤（水ベース）

ジュリボフロアブルのチアメトキサムのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 21 のとおり推定した。

表 21：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤（1倍）	2.5	経皮吸収試験②の17.5倍希釈液の経皮吸収率を利用。
200倍	47	経皮吸収試験②の製剤及び17.5倍希釈液の経皮吸収率2点を用いた線形外挿法により算出。
1,000倍	50	液体製剤（水ベース）の希釈液のデフォルト値を利用 希釈倍数1,000倍及び4,000倍について、経皮吸収試験②の経皮吸収率2点を用いた線形外挿法によって算出された値が液体製剤（水ベース）の希釈液のデフォルト値（50%）を上回ることから、デフォルト値を適用することが適当であると判断した。
4,000倍		

⑥ その他の製剤

①～⑤以外の製剤のリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、剤型によるデフォルト値を適用する。

2. 圃場における農薬使用者暴露

チアメトキサムを含有する農薬製剤で実施した圃場における農薬使用者暴露試験結果は提出されていない。

3. 暴露量の推計

申請された製剤について、I. の 5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法（別添 1）に従って使用した場合の暴露量を予測式により推計した。

推計に当たっては、農薬使用者への影響評価ガイダンス及び予測式に分類していない使用方法についての使用者安全確保の考え方（令和4年12月1日農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会決定、令和6年10月24日最終改訂）（以下「部会決定」という。）に準拠した。

推計に用いたパラメータ等及び暴露量の推計結果を別添 2 に示す。

VI. リスク評価結果

I. の 5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法（別添 1）に従って使用した場合の暴露量は、AOEL 及び AAOEL を下回っていた（別添 2）。

評価資料

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP適合状況（必要な場合）、公表の有無
1	2026	農薬評価書 チアメトキサム（第4版） 食品安全委員会、公表 URL https://www.fsc.go.jp/fsciis/attachedFile/download?retrievalId=kya20221214232&fileId=210
2	1996	Absorption, Distribution, and Excretion of [Thiazol-2- ¹⁴ C] and [Oxdiazin-4- ¹⁴ C]-CGA293343 in the Rat GLP、未公表
3	2002	Absorption, Distribution and Excretion of [Oxadiazin-4- ¹⁴ C]CGA293343 in the Mouse after Oral Administration GLP、未公表
4	1996	AN ACUTE ORAL TOXICITY STUDY OF CGA 293343 TECH IN RATS GLP、未公表
5	1996	AN ACUTE ORAL TOXICITY STUDY OF CGA 293343 TECH IN MICE GLP、未公表
6	1996	AN ACUTE DEMAL TOXICITY STUDY OF CGA 293343 TECH IN RATS GLP、未公表
7	1996	CGA 293'343原体のラットにおける急性吸入毒性試験 GLP、未公表
8	1996	A PRIMARY SKIN IRRITATION STUDY OF CGA 293343 TECH IN RABBITS GLP、未公表
9	1996	A PRIMARY EYE IRRITATION STUDY OF CGA 293343 TECH IN RABBITS GLP、未公表
10	1995	Skin Sensitisation Test in the Guinea Pig Maximisation Test GLP、未公表
11	1996	3-MONTH ORAL TOXICITY STUDY IN RATS (ADMINISTRATION IN FOOD) GLP、未公表
12	1995	28-DAYS RANGE FINDING STUDY IN RATS (ADMINISTRATION IN FOOD) GLP、未公開
13	1996	3-MONTH SUBCHRONIC DIETARY TOXICITY STUDY IN BEAGLE DOGS GLP、未公表
14	1996	28-DAYS RANGE FINDING STUDY IN BEAGLE DOGS GLP、未公開
15	1998	12-MONTH CHRONIC TOXICITY STUDY IN BEAGLE DOGS GLP、未公表
16	1996	28-Day Repeated Dose Dermal Toxicity Study in the Rat GLP、未公表
17	1995	SALMONELLA AND ESCHERICHIA/MAMMALIAN-MICROSOME MUTAGENICITY TEST GLP、未公表
18	1999	SALMONELLA/MAMMALIAN-MICROSOME MUTAGENICITY TEST GLP、未公表
19	1996	CYTOGENETIC TEST ON CHINESE HAMSTER CELLS IN VITRO GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP適合状況（必要な場合）、公表の有無
20	1995	MICRONUCLEUS TEST, MOUSE GLP、未公表
21	1996	GENE MUTATION TEST WITH CHINESE HAMSTER CELLS V79 GLP、未公表
22	1996	AUTORADIOGRAPHIC DNA REPAIR TEST ON RAT HEPATOCYTES GLP、未公表
23	2000	AUTORADIOGRAPHIC DNA REPAIR TEST ON MOUSE HEPATOCYTES IN VITRO GLP、未公表
24	1998	24-MONTH CARCINOGENICITY AND CHRONIC TOXICITY STUDY IN RATS GLP、未公表
25	1998	18-MONTH ONCOGENICITY STUDY IN MICE GLP、未公表
26	1996	3-MONTH RANGE FINDING STUDY IN MICE (ADMINISTRATION IN FOOD) GLP、未公開
27	1998	Effects on biochemical parameters in the liver following administration to male and female mice 非GLP、未公表
28	1998	ASSESSMENT OF HEPATIC CELL PROLIFERATION IN MICE 非GLP、未公表
29	1999	Histochemical assessment of hepatic apoptosis upon treatment of male mice with CGA293343 tech. (Thiamethoxam) for up to 9 months 非GLP、未公表
30	2000	DETERMINATION OF PARAMETERS INDICATIVE FOR OXIDATIVE STRESS IN MALE MICE FOLLOWING SUBCHRONIC TREATMENT FOR UP TO 60 DAYS 非GLP、未公表
31	2003	DETERMINATION OF SELECTED ENZYMES KNOWN TO BE INVOLVED IN THE BIOSYNTHESIS AND MODULATION OF GLUTATHIONE IN THE LIVER OF MICE FOLLOWING SUBCHRONIC TREATMENT FOR UP TO 60 DAYS GLP、未公表
32	2003	Assessment of hepatic cell proliferation and apoptosis in male mice upon treatment with CGA 293343 tech. for up to fifty weeks GLP、未公表
33	2003	THIAMETHOXAM (CGA 293343 TECH.): SUBLOBULAR ASSESSMENT OF HEPATIC CELL PROLIFERATION AFTER 40 WEEKS 非GLP、未公表
34	2003	Determination of parameters indicative for oxidative stress in male mice upon treatment with CGA 293343 tech. for up to 50 weeks GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP適合状況（必要な場合）、公表の有無
35	2003	CGA 293343(THIAMETHOXAM): ASSESSMENT OF HEPATIC CELL PROLIFERATION AND APOPTOSIS IN FEMALE RATS UPON TREATMENT FOR UP TO FIFTY WEEKS GLP、未公表
36	2003	Effects on Selected Biochemical Parameters in the Liver Following Dietary Administration to Female Rats for 1 and 10 Weeks 非GLP、未公表
37	1997	THE EFFECTS OF CGA 293343 Tech. AND CGA 256084 IN PRIMARY CULTURED RAT AND MOUSE HEPATOCYTES 非GLP、未公表
38	1995	CGA 293343: ASSESSMENT OF REPLICATIVE DNA SYNTHESIS IN THE COURSE OF A 28-DAYS ORAL (FEEDING) TOXICITY STUDY IN MALE RATS 非GLP、未公表
39	2004	THIAMETHOXAM : RECEPTOR BINDING STUDIES WITH THIAMETHOXAM, IMIDACLOPRID AND NICOTINE: INTERACTION WITH MAMMALIAN $\alpha 4\beta 2$ AND $\alpha 7$ -TYPE NICOTINIC ACETYLCHOLINE RECEPTORS 非GLP、未公表
40	1999	HISTOPATHOLOGIC EVALUATION OF THE LIVER OF MALE MICE UPON TREATMENT WITH A SINGLE HIGH DOSE OF CGA 293343 TECH. (THIAMETHOXAM) 非GLP、未公表
41	2003	THIAMETHOXAM (CGA293343): METABOLISM IN MICE AND RATS DURING DIETARY FEEDING STUDIES 非GLP、未公表
42	2003	CGA 293343(THIAMETHOXAM), CGA 322704 AND CGA 265307: COMPARATIVE TOXICITY IN THE LIVER OF MALE Tlf: MAGf AND CD-1 MICE 非GLP、未公表
43	2003	THIAMETHOXAM (CGA293343): HEPATOTOXICITY OF METABOLITES 非GLP、未公表
44	2003	THIAMETHOXAM (CGA293343): COMPARATIVE HEPATOTOXICITY IN WEANLING AND ADULT MICE 非GLP、未公表
45	2003	THIAMETHOXAM (CGA293343): CHANGES IN PLASMA CHOLESTEROL LEVELS DURING DIETARY FEEDING STUDIES 非GLP、未公表
46	2003	THIAMETHOXAM (CGA293343): THE ROLE OF NITRIC OXIDE IN THE DEVELOPMENT OF HEPATOTOXICITY IN MICE 非GLP、未公表
47	2000	チアメトキサムのラットにおける免疫毒性試験（胸腺への影響） 非GLP、未公表
48	2011	Thiamethoxam – A 28 – Day Dietary Immunotoxicity Study in B6C3F1 Female Mice GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP適合状況（必要な場合）、公表の有無
49	1998 (修正書1 2000)	CGA293343 Technical: Rat Dietary Two-Generation Reproduction Study GLP、未公表
50	1995	CGA 293343 Technical : Rangefinding Rat Dietary Reproduction Study GLP、未公表
51	2004	THIAMETHOXAM: TWO GENERATION REPRODUCTION STUDY IN RATS GLP、未公表
52	1996	CGA293343 Technical: Rat Oral Teratogenicity GLP、未公表
53	1995	CGA 293343 Technical : Rangefinding Rat Oral Teratogenicity 非GLP、未公表
54	1996	CGA293343 Technical: Rabbit Oral Teratogenicity GLP、未公表
55	1995	CGA 293343 Technical : Rangefinding Rabbit Oral Teratogenicity 非GLP、未公表
56	1997	Acute Neurotoxicity Study of Orally Administered CGA-293343 TECH in Rats GLP、未公表
57	1998	13-Week dietary subchronic neurotoxicity study with CGA293343 tech. in rats GLP、未公表
58	2003 2007	THIAMETHOXAM: DEVELOPMENTAL NEUROTOXICITY STUDY IN RATS GLP、非公表
59	2003	THIAMETHOXAM : PRELIMINARY DEVELOPMENTAL NEUROTOXICITY STUDY IN RATS GLP、非公表
60	1998	CGA293343 原体の生体機能に及ぼす影響に関する試験 非 GLP、未公表情報
61	2022	チアメトキサム公表文献報告書 URL : 分割 1 https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ta-5.pdf 分割 2 https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ta-6.pdf 分割 3 https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ta-7.pdf 分割 4 https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ta-8.pdf 分割 5 https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ta-9.pdf 分割 6 https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ta-10.pdf 分割 7 https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ta-11.pdf
62	2024	チアメトキサム公表文献報告書（追補） URL : https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ta-12.pdf
63	2024	チアメトキサム公表文献報告書公表文献に関する情報募集で寄せられた情報 URL : https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ta-13.pdf

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP適合状況（必要な場合）、公表の有無
64	2005	Green T, Toghil A, Lee R, Waechter F, Weber E, Peffer R, Noakes J, Robinson M. : Thiamethoxam induced mouse liver tumors and their relevance to humans. Part 2: Species Differences in R esponse ; Toxicological Sciences :2005 ;86(1):48-55.
65	2006	Ford K and Casida J.: Unique and Common Metabolites of Thiamethoxam, Clothianidin, and Dinotefuran in Mice: Chem. Res. Toxicol: 2006; 19, 1549-1556.
66	2010	Rodrigues K , Santana M , Do J, Picanco-Diniz D , Maues L , Santos S , Ferreira V , Alfonso M , Duran R , Faro L , Faro L : Behavioral and biochemical effects of neonicotinoid thiamethoxam on the cholinergic system in rats – Rodrigues ; Ecotoxicology & Environmental Safety : 2010 ; 73 : 101-107
67	2013	Swenson T and Casida J. Neonicotinoid formaldehyde generators: Possible mechanism of mouse-specific hepatotoxicity/ hepatocarcinogenicity of thiamethoxam: Toxicology Letters: 2013;216: 139–145.
68	2023	Yi L, Zhang S, Chen X, Wang T, Yi X, Yeerkenbieke G, Shi S, Lu X. Evaluation of the risk of human exposure to thiamethoxam by extrapolation from a toxicokinetic experiment in rats and literature data: Environment International: 2023; 173:107823
69	2023	Nishihama Y, Nakayama SF, Isobe T, Kamijima M.: Association between maternal urinary neonicotinoid concentrations and child development in the Japan Environment and Children's Study: Environ Int. 2023; 181: 108267.
70	2023	Mahai G, Wan Y, Wang A, Qian X, Li J, Li Y et al.: Exposure to multiple neonicotinoid insecticides, oxidative stress, and gestational diabetes mellitus: Association and potential mediation analyses. Environ Int. 2023; 179: 108173.
71	2023	Zhenping L, Yi H, Lap A T, Jinxia Y, Zhuannning X, Xiaoning L et al.: Urinary neonicotinoid insecticides and adiposity measures among 7-year-old children in northern China: A cross-sectional study: International Journal of Hygiene and Environmental Health. 2023; 251: 114188.
72	2021	Suwannarin N, Prapamontol T, Isobe T, Nishihama Y, Hashimoto Y, Mangklabruks A et al.: Exposure to Organophosphate and Neonicotinoid Insecticides and Its Association with Steroid Hormones among Male Reproductive-Age Farmworkers in Northern Thailand: International Journal of Environmental Research and Public Health: 2021; 18: 5599.
73	2021	Zhang N, Wang B, Zhang Z, Chen X, Huang Y, Liu Q et al.: Occurrence of neonicotinoid insecticides and their metabolites in tooth samples collected from south China: Associations with periodontitis. Chemosphere. 2021; 264(Pt 1): 128498.
74	2022	Zhang H, Bai X, Zhang T, Song S, Zhu H, Lu S, Kannan K, Sun H.: Neonicotinoid Insecticides and Their Metabolites Can Pass through the Human Placenta Unimpeded: ACS Publications: 2022; 56: 17143-17152.
75	2015	Marfo JT, Fujioka K, Ikenaka Y, Nakayama SM, Mizukawa H, Aoyama Y et al. Relationship between Urinary N-Desmethyl-Acetamiprid and Typical Symptoms including Neurological Findings: A Prevalence Case-Control Study. PLoS One. 2015; 10 (11): e0142172.

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP適合状況（必要な場合）、公表の有無
76	2022	Nishizawa T, Ikenaka Y, Ichikawa G, Taguchi T: Thiamethoxam intoxication due to occupational inhalational exposure: BMJ Case Rep: 2022; 15: e251110.
77	2016	Osaka A, Ueyama J, Kondo T, Nomura H, Sugiura Y, Saito I et al.: Exposure characterization of three major insecticide lines in urine of young children in Japan-neonicotinoids, organophosphates, and pyrethroids: Environmental Research: 2016; 147, 89-96
78	2015	Ueyama J, Harada KH, Koizumi A, Sugiura Y, Kondo T, Saito I et al.: Temporal Levels of Urinary Neonicotinoid and Dialkylphosphate Concentrations in Japanese Women Between 1994 and 2011: Environmental Science & Technology: 2015; 49, 14522-14528
79	2020	Wang A, Mahai G, Wan Y, Yang Z, He Z, Xu S et al.: Assessment of imidacloprid related exposure using imidacloprid-olefin and desnitro-imidacloprid: Neonicotinoid insecticides in human urine in Wuhan, China: Environment International: 2020; 141, 105785
80	2021	Oya N, Ito Y, Ebara T, Kato S, Ueyama J, Aoi A et al.: Cumulative exposure assessment of neonicotinoids and an investigation into their intake-related factors in young children in Japan: Science of the Total Environment: 2021; 750, 141630
81	2021	Anai A, Hisada A, Yunohara T, Iwasaki M, Arizono K, Katoh T: Urinary neonicotinoids level among pregnant women in Japan: International Journal of Hygiene and Environmental Health: 2021; 236,113797
82	2018	Thiamethoxam WG (A9584C) - The <i>In Vitro</i> Percutaneous Absorption of Radiolabelled Thiamethoxam in Concentrate Formulation and Three In-Use Dilutions Through Human Split-Thickness Skin - Final Report Amendment 1 GLP、未公表
83	2002	Dermal Absorption of [Oxadiazin-4- ¹⁴ C] CGA 293343 Formulated as CRUISER® 350 FS (A-9700B) in the Rat (in vivo) GLP 未公表
84	1996	Acute Dermal Irritation/Corrosion Study in the Rabbit GLP、未公表
85	1996	Skin Sensitisation Test in the Guinea Pig Maximisation Test GLP、未公表
86	1997	CGA293343 SG10 (CG-216顆粒水溶剤) のウサギを用いた皮膚一次刺激性試験 GLP、未公表
87	1997	CGA293343 SG10 (CG-216顆粒水溶剤) のモルモットを用いた皮膚感作性試験 (Maximization Test) GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP適合状況（必要な場合）、公表の有無
88	2003	SYJ-101 顆粒水和剤のウサギにおける皮膚一次刺激性試験 GLP、未公表
89	2003	SYJ-101 顆粒水和剤のモルモットにおける皮膚感作性試験 GLP、未公表
90	2008	SYJ-177顆粒水和剤のウサギを用いた皮膚刺激性試験 GLP、未公表
91	2008	SYJ-177顆粒水和剤のモルモットを用いた皮膚感作性試験（Buehler Test法） GLP、未公表
92	2021	Thiamethoxam FS (A9700J) -Primary Skin Irritation Study in Rabbits GLP、未公表
93	2018	Thiamethoxam FS (A9700J) - Evaluation of Skin Sensitization Potential in the Mouse using the Local Lymph Node Assay (LLNA) GLP、未公表
94	2006	Chlorantraniliprole/Thiamethoxam SC (A15452B):Primary Skin Irritation Study in Rabbits (4-Hour Semi-Occlusive Application) GLP、未公表
95	2006	“Chlorantraniliprole/Thiamethoxam SC (A15452B)”：Skin Sensitisation Study (Nine Induction Dose Buehler Test) GLP、未公表
96	2022	チアメトキサムの試験成績の概要及び考察 未公表

別紙 1 代謝物略称

記号	化学名
B	N-(2-クロロ-チアゾール-5-イルメチル)-N'-メチル-N''-ニトロ-グアニジン (クロチアニジン)
D	3-(2-クロロ-チアゾール-5-イルメチル)-[1,3,5]オキサジアジナン-4-イリデン-N-ニトロアミン
G	1-(2-クロロ-チアゾール-5-イルメチル)-3-メチル-ウレア
M	N-(2-クロロ-チアゾール-5-イルメチル)-N'-ニトロ-グアニジン

別添 1：適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（チアメトキサム）

目 次

1. 登録番号 20672：アクタラ顆粒水溶剤 （チアメトキサム 10.0%水溶剤）	3
2. 登録番号 20673：アクタラ粒剤 5 （チアメトキサム 0.50%粒剤）	11
3. 登録番号 20674：アクタラ箱粒剤 （チアメトキサム 2.0%粒剤）	16
4. 登録番号 20850：デジタルコラトップアクタラ箱粒剤 登録番号 24003：協友デジタルコラトップアクタラ箱粒剤 （チアメトキサム 2.0%・ピロキロン 12.0%粒剤）	17
5. 登録番号 21409：クルーザー F S 3 0 （チアメトキサム 30.0%水和剤）	18
6. 登録番号 21431：リーゼン顆粒水和剤 （チアメトキサム 10.0%・ルフエヌロン 5.0%水和剤）	19
7. 登録番号 21869：アクタラ A L、 登録番号 21961：カダンスプレー E X （チアメトキサム 0.0050%液剤）	21
8. 登録番号 21937：ビートルコップ顆粒水和剤 （チアメトキサム 25.0%水和剤）	22
9. 登録番号 22050：アトラック液剤、 登録番号 22051：井筒屋アトラック液剤 （チアメトキサム 4.0%液剤）	23
10. 登録番号 22279：デジタルメガフレア箱粒剤、 登録番号 24004：協友デジタルメガフレア箱粒剤 （チアメトキサム 8.0%・ピロキロン 12.0%粒剤）	24
11. 登録番号 22329：ガーディー A L、 登録番号 22330：カダンプラス D X （エマメクチン安息香酸塩 0.00050%・チアメトキサム 0.0050%・ジフェノコナゾール 0.0050% 液剤）	25
12. 登録番号 22335：花華やか顆粒水溶剤 （エマメクチン安息香酸塩 0.25%・チアメトキサム 2.5%・ジフェノコナゾール 2.5%水溶剤）	27
13. 登録番号 22403：アミスターアクタラ S C、 登録番号 22404：協友アミスターアクタラ S C （チアメトキサム 6.5%・アゾキシストロビン 8.0%水和剤）	28
14. 登録番号 22555：ジュリボフロアブル （クロラントラニリプロール 8.7%・チアメトキサム 17.5%水和剤）	29

1 5. 登録番号 22917 : クルーザーMAXX (チアメトキサム 22.6%・フルジオキシニル 1.1%・メタラキシルM1.7%水和剤)	31
1 6. 登録番号 23161 : クルーザー 4 8 (チアメトキサム 48.0%水和剤)	32
1 7. 登録番号 23783 : ミネクトデュオ粒剤 (シアントラニリプロール 0.50%・チアメトキサム 0.30%粒剤)	33

1. 登録番号 20672 : アクタラ顆粒水溶剤
(チアメトキサム 10.0%水溶剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	チアメト キサムを 含む農薬 の総使用 回数					
なし	アブラムシ類 チュウゴクナシキジラミ	3000 倍	200~700 L /10 a	収穫 前日 まで	3 回 以内	散布	3 回 以内					
	シンクイムシ類 コナカイガラムシ類 カメムシ類	2000 倍										
もも ネクタリン	アブラムシ類	3000 倍						収穫 7 日前 まで	2 回 以内		2 回 以内	
	モモハモグリガ	2000~ 3000 倍										
	シンクイムシ類 ミカンキイロアザミウマ カメムシ類 クビアカツヤカミキリ	2000 倍										
おうとう	オウトウショウジョウバエ カメムシ類 クビアカツヤカミキリ											
りんご	アブラムシ類 ギンモンハモグリガ キンモンホソガ コナカイガラムシ類	2000~ 3000 倍		収穫 3 日前 まで	3 回 以内		3 回 以内					
	シンクイムシ類 カメムシ類	2000 倍										
	リンゴワタムシ	3000 倍										
小粒核果類 (うめを除く)	アブラムシ類 クビアカツヤカミキリ	2000 倍										
うめ	アブラムシ類	2000~ 3000 倍						2000 倍				
	カメムシ類 クビアカツヤカミキリ											
ぶどう	コナカイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ			2000~ 3000 倍								
	フタテンヒメヨコバイ											
かき	アザミウマ類 カメムシ類 コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ	2000 倍			収穫 3 日前 まで		3 回 以内		3 回 以内			

作物名	適用病虫害名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	チアメト キサムを 含む農薬 の総使用 回数			
いちじく	アザミウマ類	2000 倍	200~700 L /10 a	収穫前日まで	2 回 以内	散布	2 回以内			
マンゴー				収穫 14 日前 まで						
アセロラ				アブラムシ類	収穫 7 日前 まで			3 回 以内	3 回以内	
バナナ	バナナツヤオサゾウムシ			2 回 以内			2 回以内			
グアバ (果実)	バンジロウツノエグリヒ メハマキ									
かんきつ	ゴマダラカミキリ成虫	2000~40 00 倍	200~700 L /10 a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内			
	アブラムシ類	3000 倍								
	コナカイガラムシ類 ミカンハモグリガ コアオハナムグリ ケシキスイ類 ミカンバエ成虫	2000~30 00 倍								
	アザミウマ類 ロウムシ類 カメムシ類 ミカンバエ幼虫 ミカンキジラミ	2000 倍								
かんきつ (苗木)	ミカンハモグリガ アブラムシ類 ゴマダラカミキリ	10 倍	樹当り 10~ 100 mL	春芽・夏芽 又は 秋芽の発生前	3 回 以内	主幹 部に 吹き つけ				
		25 倍	樹当り 20~ 100 mL							
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	3000 倍	100~ 300 L /10 a	収穫前日まで		3 回 以内		散布	4 回以内 (定植時 までの処 理は 1 回 以内、散 布は 3 回 以内)	
	ミカンキイロアザミウマ	2000 倍								
メロン	アブラムシ類	3000 倍	150~ 300 L /10 a	収穫前日まで	3 回 以内		散布			
	ミナミキイロアザミウマ トマトハモグリバエ	2000 倍								

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	チアメトキサム を含む農薬の総 使用回数	
すいか	ミナミキイロアザミウマ	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	4 回以内（粒剤 の処理は 1 回以 内、散布は 3 回 以内）	
	アブラムシ類	3000 倍						
にがうり	ワタアブラムシ	2000 倍		収穫 7 日前 まで				4 回以内（定植 時までの処理は 1 回以内、散布 は 3 回以内）
食用へちま	アブラムシ類						3 回以内	
トマト	コナジラミ類						4 回以内（定植 時までの処理は 1 回以内、散布 は 3 回以内）	
ミニトマト					2 回 以内		3 回以内（粒剤 の処理は 1 回以 内、散布は 2 回 以内）	
なす	アブラムシ類 コナジラミ類	3000 倍		収穫前日 まで	3 回 以内			4 回以内（定植 時までの処理は 1 回以内、散布 は 3 回以内）
	ミナミキイロアザミウマ マメハモグリバエ テントウムシダマシ類	2000 倍						
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類 コナカイガラムシ類 マメハモグリバエ	3000 倍						
ししとう	アブラムシ類 コナカイガラムシ類 マメハモグリバエ							
とうがらし類 （ししとうを 除く）	アブラムシ類							

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チアメトキサム を含む農薬の総 使用回数
キャベツ	アブラムシ類	2000～ 3000 倍	100～300 L /10 a	収穫 3 日前ま で	3 回以 内	散布	4 回以内（定植時 までの処理は 1 回以内、定植後 の散布は 3 回以 内）
		100 倍	セル成型育苗ト レイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊（30×60 cm・使用土壌約 3～4 L）当り 0. 5L	育苗期 後半	1 回	灌注	
はくさい		3000 倍	100～300 L /10 a	収穫 3 日前 まで	3 回 以内	散布	
		100 倍	セル成型育苗ト レイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊（30×60 cm・使用土壌約 3～4 L）当り 0.5 L	育苗期 後半	1 回	灌注	
ブロッコリー		3000 倍	100～300 L /10 a	収穫 前日 まで	3 回 以内	散布	4 回以内（定植時 までの処理は 1 回以内、定植後 の散布は 3 回以 内）
カリフラワー		2000～ 3000 倍		収穫 7 日前 まで			
だいこん		2000 倍			2 回 以内		3 回以内（は種時 の作条混和は 1 回以内、散布は 2 回以内）

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	チアメトキシサムを 含む農薬の総使用 回数	
非結球あぶらな科葉 菜類（チンゲンサイ、なばな類を除く）	アブラムシ類	2000 倍	100～ 300 L /10 a	収穫 3 日前 まで	2 回 以内	散布	3 回以内（は種時 までの処理は 1 回 以内、は種後の処 理は 2 回以内）	
チンゲンサイ				4 回以内（は種前 の処理は 1 回以 内、定植時の処理 は 1 回以内、定植 後の処理は 2 回以 内）				
かぶ		2000～ 3000 倍		収穫 前日 まで	3 回 以内		4 回以内（は種時 の全面土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内）	
ねぎ		ネギアザミウマ ネギハモグリバエ		1000～ 2000 倍			収穫 3 日前 まで	4 回以内（定植時 までの処理は 1 回 以内、定植後の処 理は 3 回以内）
わけぎ		ネギアザミウマ ネギハモグリバエ		2000 倍			4 回以内（植付時 の作条混和は 1 回 以内、植付後は 3 回以内）	
ばれいしょ	ナストビハムシ	100 倍	10～ 20 L /10 a	植付時	1 回	植溝内 土壌散 布	4 回以内（植付時 の処理は 1 回以 内、植付後は 3 回 以内）	
	アブラムシ類		100～ 150 倍					20 L /10 a
		750 倍	25 L /10 a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布		
		3000 倍	100～ 300 L /10 a					
	テントウムシダマシ類 ナストビハムシ	2000 倍		4 回以内（粒剤の 処理は 1 回以内、 散布及び無人航空 機散布は合計 3 回 以内）				
やまのいも	アブラムシ類	3000 倍	3.2 L /10 a	収穫 7 日前 まで	2 回 以内	無人航 空機に よる散 布	3 回以内（は種前 の塗沫処理は 1 回 以内、は種後は 2 回以内）	
		32 倍		3 回以内（は種前 の塗沫処理は 1 回 以内、は種後は 2 回以内）				
未成熟とうもろこし			2000～ 3000 倍	100～ 300 L /10 a	収穫 7 日前 まで	2 回 以内	散布	3 回以内（は種前 の塗沫処理は 1 回 以内、は種後は 2 回以内）
だいず えだまめ	カメムシ類 アブラムシ類	3000 倍	収穫 7 日前 まで		3 回以内（は種前 の塗沫処理は 1 回 以内、は種後は 2 回以内）			

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	チアメトキサムを 含む農薬の総使用 回数
いんげんまめ	アブラムシ類	3000 倍	100~ 300 L /10 a	収穫 7 日前 まで	2 回 以内	散布	3 回以内（は種前 の塗沫処理は 1 回 以内、は種後は 2 回以内）
さやいんげん				収穫前日まで	3 回 以内		3 回以内
実えんどう		収穫開始 7 日前 まで					
エンサイ		収穫 14 日前 まで					
オクラ		収穫前日まで					
レタス	2000 倍	収穫 7 日前 まで		2 回 以内	3 回以内（種子へ の処理、水和剤の 灌注及び粒剤の処 理は合計 1 回以 内、定植後の散布 は 2 回以内）		
非結球レタス		収穫 3 日前 まで			3 回以内（定植時 までの処理は 1 回 以内、定植後の処 理は 2 回以内）		
しゅんぎく		ナモグリバエ		収穫 14 日前 まで	3 回 以内		4 回以内（は種時 の作条混和は 1 回 以内、散布は 3 回 以内）
しそ	アブラムシ類	3000 倍		収穫 7 日前 まで	2 回 以内		2 回以内
うこぎ				収穫 3 日前 まで			
セージ	コナジラミ類	2000 倍		収穫 21 日前 まで	3 回 以内		3 回以内
にら	ネギアザミウマ			収穫 14 日前 まで			4 回以内（定植時 までの処理は 1 回 以内、散布は 3 回 以内）
モロヘイヤ				収穫 7 日前 まで			3 回以内
アスパラガス				収穫前日まで			
ほうれんそう				アブラムシ類 ウリハムシモドキ	収穫 3 日前 まで		2 回 以内

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用方法	チアメトキサ ムを含む農薬 の総使用回数
みょうが (花穂)	コナカイガラムシ類	2000 倍	100～ 300 L /10 a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布、但し 花穂の発生 期にはマル チフィルム 被覆により 散布液が直 接花穂に飛 散しない状 態で使用する	3 回以内
みょうが (茎葉)	コナカイガラムシ類			みょうが (花穂) の 収穫前日ま で 但し、 花穂を収穫 しない場合 にあつては 開花期終了 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
てんさい	テンサイトビハムシ	50～ 200 倍	ペーパー ポット 1 冊当り 1L (3L/m ²)	定植前	1 回	苗床灌注	5 回以内（種 子への処理は 1 回以内、苗 床灌注は 1 回 以内、散布及 び無人航空機 散布は合計 3 回以内）
	カメノコハムシ	50 倍					
	テンサイモグリハナバエ	100～ 200 倍					
	アブラムシ類	3000 倍	100～ 300 L /10 a	収穫 7 日前 まで	3 回 以内		
茶	チャノキイロアザミウマ マダラカサハラハムシ	2000 倍	200～ 400 L /10 a	摘採 7 日前 まで	1 回	散布	1 回
	チャノミドリヒメヨコバイ	2000 ～ 3000 倍					
	コミカンアブラムシ ツマグロアオカスミカメ	3000 倍					
花き類・ 観葉植物 (宿根ア スター、 トルコギ キョウ、 きくを除 く)	ミカンキイロアザミウマ	1000 倍	100～ 300 L /10 a	発生初期	6 回 以内		6 回以内
	ハモグリバエ類	2000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	チアメトキ サムを含む 農薬の総使 用回数
宿根アスター トルコギキョウ	ミカンキイロアザミウマ	1000 倍	100～ 300 L /10 a	発生初期	6 回 以内	散布	6 回 以内
	ハモグリバエ類 コナジラミ類	2000 倍					
きく	ミカンキイロアザミウマ	1000 倍					
	ハモグリバエ類	2000 倍	200～ 400 L /10 a	発生初期	5 回 以内		5 回 以内
つつじ類	ツツジグンバイ						

作物名	適用病害虫名	使用量	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアメト キシムを 含む農薬 の総使用 回数
きく	ミカンキイロアザミウマ ウスモンミドリカスミカメ	300 g /10 a	300～ 1000 L /10 a	発生 初期	6 回 以内	灌水チュー ブを用いた 灌注処理	6 回以内

2. 登録番号 20673 : アクタラ粒剤 5
(チアメトキシサム 0.50%粒剤)

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキシサムを含む農薬の総使用回数	
きゅうり	ー	アブラムシ類 コナジラミ類 トマトハモグリバエ	1 g/株	定植時	1 回	植穴処理	4 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、散布は 3 回以内）	
なす		ミナミキイロアザミウマ マメハモグリバエ コナジラミ類 コガネムシ類幼虫						育苗期後半
		アブラムシ類		株元散布				
		ミカンキイロアザミウマ	2 g/株	定植時		植穴処理		
トマト		ハモグリバエ類	1~2 g/株	育苗期後半		株元散布	植穴処理	3 回以内（粒剤の処理は 1 回以内、散布は 2 回以内）
		コナジラミ類	1 g/株					
ミニトマト		ハモグリバエ類	1~2 g/株	定植時		株元散布	植穴処理	
		コナジラミ類	1 g/株					
ピーマン		ミナミキイロアザミウマ	2 g/株	定植時		株元散布	植穴処理	4 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、散布は 3 回以内）
		アブラムシ類	1 g/株					4 回以内（定植時の植穴処理は 1 回以内、散布は 3 回以内）
カリフラワー				0.5~1 g/株		育苗期後半	株元散布	4 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内）

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキシサムを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	ー	アオムシ ハイマダラノメイガ	2g/株	育苗期後半	1回	株元散布	4回以内（定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内）
		コナガ	セル成型育苗トレイ 1箱またはペーパーポット 1冊（30×60 cm・使用土壌約 3~4 L）当り 20~30 g	は種時		散布	
アブラムシ類			セル成型育苗トレイ 1箱またはペーパーポット 1冊（30×60 cm・使用土壌約 3~4 L）当り 30 g	育苗期後半			
		1~2 g/株	全面土壌混和				
		キャベツ	苗地床 1 m ² 当り 6 g	は種前		植穴処理	
2 g/株			定植時	株元散布			
			ハイマダラノメイガ	育苗期後半		散布	
セル成型育苗トレイ 1箱またはペーパーポット 1冊（30×60 cm・使用土壌約 3~4 L）当り 20~30 g		は種時		床土混和			
コナガ		15 g/培土 L	は種前	株元散布			
		アオムシ	2 g/株	育苗期後半		株元散布	
はくさい		1~2 g/株	育苗期後半	株元散布			
						すいか	
いちご		1 g/株	3回以内（定植時の処理は1回以内、散布は2回以内）				

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
メロン	—	ハモグリバエ類	2 g/株	定植時	1 回	植穴処理	4 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、散布は 3 回以内）
		アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1 g/株				
にがうり		アブラムシ類	2 g/株	定植時		植穴処理	4 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、散布は 3 回以内）
レタス		アブラムシ類	0.5~1 g/株	育苗期後半		株元散布	3 回以内（種子への処理、水和剤の灌注及び粒剤の処理は合計 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内）
		ナモグリバエ		は種前		床土混和	
非結球レタス		アブラムシ類	0.5~1 g/株	育苗期後半		株元散布	3 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、定植後の処理は 2 回以内）
		ナモグリバエ		は種前		床土混和	
かんしょ		アブラムシ類	6 kg/10 a	育苗期		株元散布	1 回
		コガネムシ類幼虫	6~9 kg/10 a	植付前		作条混和	
さといも		アブラムシ類				6 kg/10 a	
		コガネムシ類幼虫	作条混和	2 回以内（植付前までは 1 回、生育期は 1 回）			
		アブラムシ類	株元散布				
やまのいも		アブラムシ類	6 kg/10 a	萌芽期		株元散布	4 回以内（粒剤の処理は 1 回以内、散布及び無人航空機散布は合計 3 回以内）
		ナガイモコガ		植付時		植溝土壌混和	
ばれいしょ		アブラムシ類	2~6 kg/10 a			植付時	作条混和
にら		ネギアザミウマ	6 kg/10 a	植付時		4 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、定植後の処理は 3 回以内）	
ねぎ		ネギアザミウマ	6 kg/10 a	は種時		4 回以内（定植時までの処理は 1 回以内、定植後の処理は 3 回以内）	
			6~9 kg/10 a	植付時			
わけぎ		ネギハモグリバエ					
		ネギアザミウマ	4 回以内（植付時の作条混和は 1 回以内、植付後は 3 回以内）				
あさつき	ネギハモグリバエ	1 回					

作物名	適用場所	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
非結球あぶらな科葉菜類 (チンゲンサイ、なばな類を除く)	ー	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	作条混和	3 回以内 (は種時までの処理は 1 回以内、は種後の処理は 2 回以内)
チンゲンサイ		アブラムシ類 コナガ	15 g/培土 L	は種前	1 回	床土混和	4 回以内 (は種前の処理は 1 回以内、定植時の処理は 1 回以内、定植後の処理は 2 回以内)
		アブラムシ類	6 kg/10 a	定植時	1 回	作条混和	
		ハモグリバエ類					
セルリー		ナモグリバエ	2 g/株	鉢上時	2 回以内	土壌混和	2 回以内 (鉢上時の土壌混和は 1 回以内、定植時の植穴処理は 1 回以内)
				定植時		植穴処理	
れんこん		クワイクビレアブラムシ	6 kg/10 a	収穫 14 日前まで	3 回以内	湛水散布	3 回以内
だいこん		アブラムシ類	4 kg/10 a	は種時	1 回	作条混和	3 回以内 (は種時の作条混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)
かぶ			6 kg/10 a			全面土壌混和	4 回以内 (は種時の全面土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
にんじん		コガネムシ類幼虫				1 回	1 回
こんにゃく		アブラムシ類		培土時 (但し、出芽前まで)			
ほうれんそう			アブラムシ類	は種時	作条混和	3 回以内 (種子への処理及びは種時の作条混和は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)	
しゅんぎく		ハモグリバエ類				4 回以内 (は種時の作条混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)	

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
せり	水田	アブラムシ類	3 kg/10 a	親株養成期 但し、収穫 100 日前まで	1 回	湛水散布	1 回
かんきつ（苗木）	ー	ミカンハモグリガ	20~40 g/樹	育苗期	2 回以内	株元散布	3 回以内
		コナカイガラムシ類 ミカンキジラミ	20 g/樹				
つつじ類		コガネムシ類幼虫	9 kg/10 a	生育期	1 回	全面 土壌混和	5 回以内
		ツツジグンバイ		植付時			
		6~9 kg/10a	生育期	1 回	株元散布	6 回以内	
花き類・観葉植物		アブラムシ類					6 kg/10 a
げっきつ		ミカンキジラミ					40 g/樹

3. 登録番号 20674 : アクタラ箱粒剤
(チアメトキサム 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植前 3 日~ 移植当日	1 回	育苗箱 中の苗 の上か ら均一 に散布 する	3 回以内 (移植時までの処理 は 1 回以内、本田で は 2 回以内))
	ツマグロヨコバイ					
	イネミズゾウムシ					
	イネドロオイムシ					

4. 登録番号 20850 : デジタルコラトップアクタラ箱粒剤

登録番号 24003 : 協友デジタルコラトップアクタラ箱粒剤

(チアメトキサム 2.0%・ピロキロン 12.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	ピロキロンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ いもち病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当 り 50 g	移植前 3 日～ 移植 当日	1 回	育苗箱 中の苗 の上か ら均一 に散布 する	3 回以内 (移植時ま での処理は 1 回以内、本 田では 2 回 以内)	3 回以内 (移植時ま での処理は 1 回以内、本 田では 2 回 以内)
		高密度には種する場合 は 1 kg/10 a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当 り 50~100 g)					
	イネクロカメムシ ニカメイチュウ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当 り 50 g	移植 当日				
		高密度には種する場合 は 1 kg/10 a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当 り 50~100 g)					
稲	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ いもち病	1 kg/10 a	移植時	1 回	側条 施用	3 回以内 (直播での は種時又 は移植時 までの処 理は 1 回 以内、本 田では 2 回以内)	3 回以内 (直播での は種時又 は移植時 までの処 理は 1 回 以内、本 田では 2 回以内)

5. 登録番号 21409 : クルーザー F S 3 0
(チアメトキシサム 30.0%水和剤)

作物名	適用病虫害名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアメトキシサム を含む農薬の総 使用回数
だいず えだまめ	アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ	乾燥種子 1 kg 当り 原液 6 mL	は種前	1 回	塗沫 処理	3 回以内（は種 前の塗沫処理は 1 回以内、は種 後は 2 回以内）
いんげんまめ	アブラムシ類 タネバエ					
豆類 （種実、ただし、らっか せい、だいず、いんげん まめを除く）	アブラムシ類 タネバエ					1 回
とうもろこし（子実）	ハリガネムシ類 タネバエ					3 回以内（は種 前の塗沫処理は 1 回以内、は種 後は 2 回以内）
未成熟とうもろこし						
飼料用とうもろこし						
小麦	ヤギシロトビムシ					

6. 登録番号 21431：リーズン顆粒水和剤

(チアメトキサム 10.0%・ルフェヌロン 5.0%水和剤)

作物名	適用病虫害名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	チアメ トキサ ムを含 む農薬 の総使 用回数	ルフェヌ ロンを含 む農薬の 総使用回 数
りんご	クワコナカイガラムシ ハマキムシ類 シンクイムシ類 ヨモギエダシャク	2000 倍	200～ 700 L /10 a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回 以内	3 回 以内
	ギンモンハモグリガ キンモンホソガ アブラムシ類 リンゴサビダニ	2000～ 3000 倍						
みかん	チャノキイロアザミウマ アゲハ類				3 回 以内			
かんきつ (みかんを除く)	ミカンハモグリガ ゴマダラカミキリ成虫 ミカンサビダニ				収穫 21 日前 まで		1 回	3 回 以内

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用方法	チアメト キサムを 含む農薬 の総使用 回数	ルフェ ヌロン を含む 農薬の 総使用 回数
てんさい	アブラムシ類 ヨトウムシ カメノコハムシ シロオビノメイガ	3000 倍	100~ 150 L /10 a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	5 回以内 (種子へ の処理は 1 回以内、 苗床灌注 は 1 回以 内、散布 及び無人 航空機散 布は合計 3 回以内)	2 回 以内
		750 倍	25 L /10 a			無人航空 機による 散布		
		40 倍	1.6 L /10 a					
茶	チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ ヨモギエダシャク チャハマキ チャノコカクモンハマキ	2000 倍	200~ 400 L /10 a	摘採 7 日前 まで	1 回	散布	1 回	1 回

7. 登録番号 21869 : アクタラ A L、
登録番号 21961 : カダンスプレー E X
(チアメトキサム 0.0050%液剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チアメトキサムを含む 農薬の総使用回数
かんきつ	コナカイガラムシ類 カメムシ類	原液	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
うめ	アブラムシ類		収穫 7 日前 まで	2 回 以内		2 回以内
えだまめ だいず						3 回以内（は種前の塗 沫処理は 1 回以内、は 種後は 2 回以内）
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類		収穫前日 まで	3 回 以内		4 回以内（定植時までの 処理は 1 回以内、散 布は 3 回以内）
なす	コナジラミ類 マメハモグリバエ					
トマト	アブラムシ類					
ピーマン						
キャベツ			収穫 3 日前 まで	4 回以内（定植時までの 処理は 1 回以内、定 植後の散布は 3 回以 内）		
花き類・ 観葉植物	コナジラミ類		発生初期	6 回 以内		6 回以内
ポインセチア						
つつじ類		ツツジゲンバイ		5 回 以内	5 回以内	

8. 登録番号 21937：ビートルコップ顆粒水和剤
(チアメトキサム 25.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアメトキ サムを含む 農薬の総使 用回数
芝	コガネムシ類幼虫	4000 倍	1~2 L/m ²	発生 初期	3 回 以内	散布	3 回 以内
		400~800 倍	0.1 L/m ²				
		800~1600 倍	0.2 L/m ²				
	シバオサゾウムシ成虫	2000 倍	0.5 L/m ²				
	シバオサゾウムシ幼虫	4000 倍	1 L/m ²				
		400~800 倍	0.1 L/m ²				
		800~1600 倍	0.2 L/m ²				

9. 登録番号 22050 : アトラック液剤、
登録番号 22051 : 井筒屋アトラック液剤
(チアメトキサム 4.0%液剤)

作物名	適用病害虫名	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアメトキ サムを含む 農薬の総使 用回数
さくら	クビアカツヤカミキリ*	胸高直径（樹幹部） 6~10 cm 30 mL 11~15 cm 60 mL 16~20 cm 90 mL 21~25 cm 120 mL 26~30 cm 180 mL 30 cm 以上は胸高直径 が 5 cm 増すごとに 30~60 mL を増量する	幼虫発生前~ 幼虫発生期	3 回 以内	樹幹 注入	3 回 以内
けやき	アメリカシロヒトリ					
まつ	マツカレハ		幼虫発生前~ 幼虫発生期			
ヤシ	ヤシオオオサゾウムシ	幹材積 1 m ³ 当り 400~600 mL	幼虫発生期			
デイゴ	デイゴヒメコバチ	胸高直径（樹幹部） 6~10 cm 30~60 mL 11~20 cm 60~120 mL 20 cm 以上は胸高直径 が 10 cm 増すごとに 60~120 mL を増量す る	成虫発生前 又は 虫えい形成期			
プラタナス	プラタナスグンバイ	胸高直径（樹幹部） 6~10 cm 30 mL 11~15 cm 60 mL 16~20 cm 90 mL 21~25 cm 120 mL 26~30 cm 180 mL 30 cm 以上は胸高直径 が 5 cm 増すごとに 30~60 mL を増量する	新葉展開後			

*登録番号 22050 : アトラック液剤のみ適用あり

10. 登録番号 22279 : デジタルメガフレア箱粒剤、
登録番号 24004 : 協友デジタルメガフレア箱粒剤
(チアメトキサム 8.0%・ピロキロン 12.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	ピロキロンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植 当日	1 回	育苗箱 中の苗 の上から均一 に散布する	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、 本田では 2 回以内)	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、 本田では 2 回以内)
		高密度に は種する場合は 1 kg/10 a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					
	カメムシ類 ウンカ類 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ いもち病	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当 り 50 g	移植前 3 日~ 移植 当日				
		高密度に は種する場合は 1 kg/10 a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)					
稲	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ いもち病	1 kg/10 a	移植時	1 回	側条 施用	3 回以内 (直播での は種時又は 移植時までの 処理は 1 回以内、本田では 2 回 以内)	3 回以内 (直播での は種時又は 移植時までの 処理は 1 回以内、本田では 2 回 以内)

1 1. 登録番号 22329 : ガーディーAL、
登録番号 22330 : カダンプラスDX

(エマメクチン安息香酸塩 0.00050%・チアメトキサム 0.0050%・ジフェノコナゾール 0.0050%液剤)

作物名	適用病虫害名	希釈 倍数	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	エマメク チン安息 香酸塩を 含む農薬 の総使用 回数	チアメトキサム を含む農薬の総 使用回数	ジフェノ コナゾー ルを含む 農薬の総 使用回数				
トマト	アブラムシ類 葉かび病	原液	収穫 前日 まで	3回 以内	散布	5回 以内	4回以内（定植 時までの処理は 1回以内、散布 は3回以内）	3回 以内				
なす	アブラムシ類 コナジラミ類 ハダニ類 テントウムシダマシ類			2回 以内		2回 以内						
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類 うどんこ病											
キャベツ	アオムシ ハスモンヨトウ		収穫 14日前 まで	3回 以内		3回 以内	4回以内（定植 時までの処理は 1回以内、定植 後の散布は3回 以内）					
いちご	アブラムシ類 ハダニ類 うどんこ病		収穫 前日 まで	2回 以内		2回 以内	4回以内（定植 時の植穴処理は 2回以内、散布 は2回以内）					
花き類・ 観葉植物 （ばら、 きく、パ ンジーを 除く）	アブラムシ類		発生前 ～発生 初期	5回 以内		5回 以内	6回 以内	6回 以内				
	ハダニ類 うどんこ病		発生 初期									
ばら	アブラムシ類		発生前 ～発生 初期									
	ハダニ類 チュウレンジハバチ うどんこ病 黒星病 クロケシツブチョッキリ コガネムシ類		発生 初期									

作物名	適用病虫害名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エマメク チン安息 香酸塩を 含む農薬 の総使用 回数	チアメト キサムを 含む農薬 の総使用 回数	ジフェノ コナゾー ルを含む 農薬の総 使用回数
きく	アブラムシ類	原液	発生前 ～発生 初期	5 回 以内	散布	5 回 以内	6 回 以内	6 回 以内
	ハダニ類 うどんこ病 白さび病 褐斑病 黒斑病		発生 初期					
パンジー	アブラムシ類		発生前 ～発生 初期					
	ハダニ類 うどんこ病 ハスモンヨトウ		発生 初期					
つばき類 (やぶつば きを除く)	チャドクガ							
やぶつばき	ツノロウムシ ツバキワタカイガラムシ チャドクガ							
つつじ類	ツツジグンバイ							

1 2. 登録番号 22335：花華やか顆粒水溶剤

(エマメクチン安息香酸塩 0.25%・チアメトキサム 2.5%・ジフェノコナゾール 2.5%水溶剤)

作物名	適用病虫害名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エマメ クチン 安息香 酸塩を 含む農 薬の総 使用回 数	チアメ トキサ ムを含 む農薬 の総使 用回数	ジフェ ノコナ ゾール を含む 農薬の 総使用 回数
花き類・観葉 植物（ばら、 きくを除く）	アブラムシ類 ハダニ類 うどんこ病 アザミウマ類	500 倍	100～ 300 L /10 a	発生 初期	5 回 以内	散布	5 回 以内	6 回 以内	6 回 以内
きく	アブラムシ類 ハダニ類 うどんこ病 白さび病 アザミウマ類								
ばら	アブラムシ類 ハダニ類 チュウレンジハバチ うどんこ病 黒星病 アザミウマ類								
ポインセチア	コナジラミ類								
やぶつばき	ツバキワタカイガラムシ ツノロウムシ チャドクガ		200～ 700 L /10 a				6 回 以内	5 回 以内	

1 3. 登録番号 22403 : アミスターアクタラ S C、
登録番号 22404 : 協友アミスターアクタラ S C
(チアメトキサム 6.5%・アゾキシストロビン 8.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チアメトキ サムを含む 農薬の総使 用回数	アゾキシス トロビンを含 む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 カメムシ類	250 倍	25 L /10 a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (直播での は種時又は 移植時まで の処理は 1 回以内、 本田では 2 回以内)	4 回以内 (育苗箱 散布は 1 回以内、 本田では 3 回以 内)
	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	1000 倍	60~150 L /10 a					
	いもち病 紋枯病 カメムシ類 ウンカ類	8 倍	800 mL /10 a			無人航空機 による散布		

1 4. 登録番号 22555 : ジュリボフロアブル

(クロラントラニリプロール 8.7%・チアメトキサム 17.5%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	クロラ ントラ ニリ プロール を含む農 薬の総使 用回数	チアメ トキサ ムを農 薬の総使 用回数
キャ ベツ	アブラムシ類 アオムシ ハイマダラノメイガ ネギアザミウマ ハスモンヨトウ コナガ ネキリムシ類 ヨトウムシ	1000 倍	苗地床 1 m ² 当り 2 L	は種時~ 育苗期 後半	1 回	灌注	4 回以内 (定植時 までの処 理は 1 回 以内、定 植後の処 理は 3 回 以内)	4 回以内 (定植時 までの処 理は 1 回 以内、定 植後の散 布は 3 回 以内)
	アブラムシ類 ネギアザミウマ コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ	200 倍	セル成型育苗ト レイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊 (約 30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L) 当り 0.5 L	育苗期 後半 ~ 定植 当日				
	アオムシ コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ オオタバコガ	4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日前 まで	3 回 以内	散布		
はく さい	アブラムシ類 コナガ ハイマダラノメイガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ キスジノミハムシ カブラハバチ	200 倍	セル成型育苗ト レイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊 (約 30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L) 当り 0.5 L	育苗期 後半 ~ 定植 当日	1 回	灌注		
	コナガ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ アブラムシ類 ハスモンヨトウ	4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日前 まで	3 回 以内	散布		
プロ ッコ リー	アブラムシ類 ネギアザミウマ コナガ アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ	200 倍	セル成型育苗ト レイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊 (約 30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L) 当り 0.5 L	育苗期 後半 ~ 定植 当日	1 回	灌注	4 回以内 (定植時 までの処 理は 1 回 以内、散 布は 3 回 以内)	
	アブラムシ類 ハスモンヨトウ コナガ アオムシ	4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前 日まで	3 回 以内	散布		

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	クロラン トラニリ プロール を含む農 薬の総使 用回数	チアメト キシサム を含む農 薬の総使 用回数
レタス	アブラムシ類 カブラヤガ ヒメフタテンヨコバイ ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ナモグリバエ	200 倍	セル成型育苗ト レイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊 (約 30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L) 当り 0.5 L	育苗期 後半 ~ 定植 当日	1 回	灌注	4 回以内 (定植時 までの処 理は 1 回 以内、散 布は 3 回 以内)	3 回以内 (種子へ の処理、 水和剤の 灌注及び 粒剤の処 理は合計 1 回以 内、定植 後の散布 は 2 回以 内)
	アブラムシ類 ナモグリバエ ハスモンヨトウ オオタバコガ ヨトウムシ	4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日前 まで	2 回 以内	散布		
非結球 レタス	アブラムシ類 カブラヤガ ヒメフタテンヨコバイ ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ナモグリバエ	200 倍	セル成型育苗ト レイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊 (約 30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L) 当り 0.5 L	育苗期 後半 ~ 定植 当日	1 回	灌注	4 回以内 (灌注は 1 回以 内、散布 は 3 回以 内)	1 回
ねぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ タマネギバエ タネバエ ネキリムシ類 ネダニ類							4 回以内 (定植時 までの処 理は 1 回 以内、定 植後の処 理は 3 回 以内)
なばな類	アブラムシ類 コナガ アオムシ ハスモンヨトウ							1 回
パセリ	ハスモンヨトウ						2 回以内 (灌注は 1 回以 内、散布 は 1 回以 内)	

15. 登録番号 22917：クルーザーMAXX

(チアメトキサム 22.6%・フルジオキシニル 1.1%・メタラキシルM1.7%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	チアメトキサムを含む 農薬の総使用 回数	フルジオキシ ソニルを含む 農薬の総 使用回数	メタラキシル 及びメタラキ シルMを含む 農薬の総使用 回数
いんげん まめ	苗立枯病 (ピシウム菌) リゾクトニア根腐病 アブラムシ類 タネバエ	原液	乾燥 種子 1 kg 当り 8 mL	は 種 前	1 回	塗沫 処理	3 回以内 (は種前の 塗沫処理は 1 回以内、は 種後は 2 回 以内)	4 回以内 (種 子への処理 は 1 回以 内、散布は 3 回以内)	1 回
あずき	茎疫病 タネバエ アブラムシ類						1 回	1 回	4 回以内 (種子粉衣及 びは種前の塗 沫処理は合計 1 回以内、は 種後は 3 回以 内)
だいず	苗立枯病 (ピシウム菌) 紫斑病 茎疫病 黒根腐病						3 回以内 (は種前の 塗沫処理は 1 回以内、は 種後は 2 回 以内)		
えだまめ	リゾクトニア根腐病 白絹病 アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ								

作物名	使用 目的	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	チアメトキサムを含む 農薬の総使用 回数	フルジオキシ ニルを含む 農薬の総 使用回数	メタラキシル 及びメタラキ シルMを含む 農薬の総使用 回数
だいず	ハト、キ ジバトに よる種子 食害忌避	原液	乾燥種子 1kg 当り 8mL	は種前	1 回	塗沫 処理	3 回以内 (は種前の 塗沫処理は 1 回以内、は 種後は 2 回 以内)	1 回	4 回以内 (種子粉衣及 びは種前の塗 沫処理は合計 1 回以内、は 種後は 3 回以 内)
えだまめ								4 回以内 (は種前の 塗沫処理は 1 回以内、は 種後は 3 回 以内)	1 回

16. 登録番号 23161：クルーザー 48
(チアメトキシサム 48.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	チアメトキシサム を含む農薬の総 使用回数
なす	アブラムシ類	原液	乾燥種子 1000 粒当り 0.83 mL	は種前	1 回	種子 処理機 による 塗沫 処理	4 回以内（定植 時までの処理は 1 回以内、散布 は 3 回以内）
ピーマン きゅうり			乾燥種子 1000 粒当り 0.83~1.67 mL				
メロン							
レタス	ハモグリバエ類		乾燥種子 1000 粒当り 0.83~1.66 mL				3 回以内（種子 への処理、水和 剤の灌注及び粒 剤の処理は合計 1 回以内、定植 後の散布は 2 回 以内）
ほうれんそう	アブラムシ類		乾燥種子 1000 粒当り 0.083~0.17 mL				3 回以内（種子 への処理及びは 種時の作条混和 は合計 1 回以 内、散布は 2 回 以内）
てんさい	テンサイトビハムシ テンサイモグリハナバエ		乾燥種子 1 ユニット (約 10 万粒) 当り 100~150 mL				5 回以内（種子 への処理は 1 回 以内、苗床灌注 は 1 回以内、散 布及び無人航空 機散布は合計 3 回以内）

17. 登録番号 23783 : ミネクトデュオ粒剤

(シアントラニリプロール 0.50%・チアメトキサム 0.30%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アオムシ アブラムシ類 コナガ ハイマダラノメイガ アザミウマ類	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊（約 30×60 cm、使用土壌 約 1.5~4 L） 当り 40 g	は種覆土後 ～ 育苗期後半	1 回	散布	4 回以内 （定植時までの処理は 1 回以内、 定植後の処理は 3 回以内）	4 回以内 （定植時までの処理は 1 回以内、 定植後の散布は 3 回以内）
	アオムシ アブラムシ類 コナガ ハイマダラノメイガ アザミウマ類	1 g/株	定植時		株元 散布		
	ハイマダラノメイガ コナガ	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊（約 30×60 cm、使用土壌 約 1.5~4 L） 当り 20~30 g	は種時		散布		
	アブラムシ類	苗地床 1 m ² 当り 12 g	は種前		全面 土壌混和		
	ハイマダラノメイガ	12 g/培土 L			育苗培土 混和		
	はくさい	カブラハバチ ハイマダラノメイガ アブラムシ類 アオムシ コナガ キスジノミハムシ	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊（約 30×60 cm、使用土壌 約 1.5~4 L） 当り 40 g		は種覆土後 ～ 育苗期後半		
ハイマダラノメイガ アブラムシ類 アオムシ コナガ		1 g/株	定植時	株元 散布			
コナガ		12 g/培土 L	は種前	育苗培土 混和			

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	アブラムシ類 コナガ アザミウマ類 アオムシ ハイマダラノメイガ	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊 (約 30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L) 当り 40 g	は種覆土後 ~ 育苗期後半	1 回	散布	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、定植後の処理は 3 回以内)	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内)
	アブラムシ類 コナガ アザミウマ類 アオムシ ハイマダラノメイガ	1 g/株	定植時		株元散布		
	コナガ	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊 (約 30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L) 当り 20 g~30 g	は種時		散布		
	コナガ	12 g/培土 L	は種前		育苗培土混和		
カリフラワー	アブラムシ類 コナガ	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊 (約 30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L) 当り 40 g	育苗期後半		散布	1 回	
レタス	アブラムシ類 ネキリムシ類 オオタバコガ ハモグリバエ類	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊 (約 30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L) 当り 40 g	は種覆土後 ~ 育苗期後半		散布	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内)	3 回以内 (種子への処理、水和剤の灌注及び粒剤の処理は合計 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内)
	ヒメフタテンヨコバイ		育苗期後半				
	オオタバコガ アブラムシ類 ネキリムシ類 ハモグリバエ類	1 g/株	定植時		株元散布		
	アブラムシ類	6 g/培土 L	は種前		育苗培土混和		
非結球レタス (リーフレタスを除く)	アブラムシ類 ネキリムシ類 オオタバコガ ハモグリバエ類 ヒメフタテンヨコバイ	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊 (約 30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L) 当り 40 g	育苗期後半		散布	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内)	1 回

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	チアメトキシサムを含む農薬の総使用回数
リーフレタス	アブラムシ類 ネキリムシ類 オオタバコガ ハモグリバエ類	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊 (約 30×60 cm、使用土壌 約 1.5~4 L) 当 り 40 g	は種覆土後 ~ 育苗期後半	1 回	散布	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、 定植後の散布は 3 回以内)	1 回
	ヒメフタテンヨコバイ		育苗期後半			4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、 定植後の散布は 3 回以内)	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、 定植後の処理は 3 回以内)
ねぎ	アザミウマ類 ハモグリバエ類 ネキリムシ類 タネバエ シロイチモジヨトウ	6 kg/10 a	育苗期後半	3 回以内	植溝 土壌 混和	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、 定植後の処理は 3 回以内 (但し、 株元灌注は 1 回以内))	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、 定植後の処理は 3 回以内)
	アザミウマ類 ハモグリバエ類 タネバエ ネキリムシ類		定植時		作条 散布		
	アザミウマ類 ハモグリバエ類 ネキリムシ類		定植時		株元 散布		
	アザミウマ類 ハモグリバエ類 シロイチモジヨトウ		収穫 3 日前 まで		株元 散布		
きゅうり	アザミウマ類	3 g/培土 L	鉢上げ時	1 回	育苗 培土 混和	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、 定植後の散布は 3 回以内)	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類	1 g/株	鉢上げ時 ~ 育苗期後半		株元 散布	1 回	
なす	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類 ハスモンヨトウ	2 g/株	育苗期後半	1 回	株元 散布	1 回	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
	コナカイガラムシ類		育苗期後半				
	アザミウマ類	6 g/培土 L	鉢上げ時		育苗 培土 混和		

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
すいか	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	2 g/株	鉢上げ時 ～ 育苗期後半	1 回	株元 散布	1 回	4 回以内 (粒剤の処理は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	アブラムシ類		定植時		植穴 処理		
メロン	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類		鉢上げ時 ～ 育苗期後半		株元 散布		
ピーマン	アザミウマ類 コナジラミ類						
	アブラムシ類						
トマト	コナジラミ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類 ハスモンヨトウ ネキリムシ類					6 g/培土 L	鉢上げ時
	2 g/株	定植時	植穴 処理				
	ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類 ハスモンヨトウ ネキリムシ類	2 g/株		鉢上げ時 ～ 育苗期後半	株元 散布	3 回以内 (粒剤の処理は 1 回以内、散布は 2 回以内)
コナジラミ類		6 g/培土 L	鉢上げ時		育苗 培土 混和		
		2 g/株	定植時		植穴 処理		

別添2：暴露量の推計（チアメトキサムを有効成分として含む製剤）

目次	頁
1. 登録番号20672：アクタラ顆粒水溶剤 （チアメトキサム10.0%水溶剤）	2
2. 登録番号20673：アクタラ粒剤 5 （チアメトキサム0.50%粒剤）	11
3. 登録番号20674：アクタラ箱粒剤 （チアメトキサム2.0%粒剤）	16
4. 登録番号20850：デジタルコラトップアクタラ箱粒剤 登録番号24003：協友デジタルコラトップアクタラ箱粒剤 （チアメトキサム2.0%・ピロキロン12.0%粒剤）	17
5. 登録番号21409：クルーザー F S 3 0 （チアメトキサム30.0%水和剤）	18
6. 登録番号21431：リーズン顆粒水和剤 （チアメトキサム10.0%・ルフェヌロン5.0%水和剤）	19
7. 登録番号21869：アクタラ A L、 登録番号21961：カダンスプレー E X （チアメトキサム0.0050%液剤）	21
8. 登録番号21937：ビートルコップ顆粒水和剤 （チアメトキサム25.0%水和剤）	22
9. 登録番号22050：アトラック液剤、 登録番号22051：井筒屋アトラック液剤 （チアメトキサム4.0%液剤）	23
10. 登録番号22279：デジタルメガフレア箱粒剤、 登録番号24004：協友デジタルメガフレア箱粒剤 （チアメトキサム8.0%・ピロキロン12.0%粒剤）	24
11. 登録番号22329：ガーディー A L、 登録番号22330：カダンプラス D X （エマメクチン安息香酸塩0.00050%・チアメトキサム0.0050%・ ジフェノコナゾール0.0050%液剤）	25
12. 登録番号22335：花華やか顆粒水溶剤 （エマメクチン安息香酸塩0.25%・チアメトキサム2.5%・ ジフェノコナゾール2.5%水溶剤）	26
13. 登録番号22403：アミスターアクタラ S C、 登録番号22404：協友アミスターアクタラ S C （チアメトキサム6.5%・アゾキシストロビン8.0%水和剤）	28
14. 登録番号22555：ジュリボフロアブル （クロラントラニリプロール8.7%・チアメトキサム17.5%水和剤）	29
15. 登録番号22917：クルーザー M A X X （チアメトキサム22.6%・フルジオキシニル1.1%・メタラキシル M1.7%水和剤）	31
16. 登録番号23161：クルーザー 4 8 （チアメトキサム48.0%水和剤）	32
17. 登録番号23783：ミネクトデュオ粒剤 （シアントラニリプロール0.50%・チアメトキサム0.30%粒剤）	33

*：本資料は、製剤のハザード区分に応じた防護装備も考慮して作成した。

1. 登録番号20672：アクタラ顆粒水溶剤（チアメトキサム10.0%水溶剤）

① 製剤情報	登録番号	20672
	種類・名称	チアメトキサム水溶剤 (アクタラ顆粒水溶剤)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	10 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	顆粒水和剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤 希釈液	1	10
	10	3.2
	32	3.2
	50	4.8
	100	4.8
	750	4.8
	1000	4.8
	2000	4.8
	3000	4.8
	3333	4.8

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	なし	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（棚） （手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			6.7	28.8	56.1	5.8	
1*	なし	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（棚） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			4.4	27.4	36.5	5.5	
2	もも	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.5	30.8	20.6	6.2	
2*	もも	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.7	17.6	13.8	3.5	
3	ネクタリン	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.5	30.8	20.6	6.2	
3*	ネクタリン	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.7	17.6	13.8	3.5	
4	おうとう	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.6	30.8	13.7	6.2	
4*	おうとう	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.1	17.6	9.2	3.5	
5	りんご	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			4	30.8	33.6	6.2	

5*	りんご	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			2.7	17.6	22.5	3.5	
6	小粒核果類（うめを除く）	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.6	30.8	13.7	6.2	
6*	小粒核果類（うめを除く）	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.1	17.6	9.2	3.5	
7	うめ	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.6	30.8	13.7	6.2	
7*	うめ	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.1	17.6	9.2	3.5	
8	ぶどう	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（棚） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			3.2	28.8	26.7	5.8	
8*	ぶどう	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（棚） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			2.2	27.4	18.2	5.5	
9	かき	2000 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／3回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.6	30.8	13.4	6.2	
9*	かき	2000 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／3回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.3	17.6	10.6	3.5	
10	いちじく	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.1	30.8	8.9	6.2	
10*	いちじく	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.8	17.6	7	3.5	
11	マンゴー	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.1	30.8	8.9	6.2	
11*	マンゴー	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.8	17.6	7	3.5	
12	アセロラ	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.1	30.8	8.9	6.2	
12*	アセロラ	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.8	17.6	7	3.5	
13	パナナ	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／3回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.6	30.8	13.4	6.2	

13*	バナナ	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	1.3	17.6	10.6	3.5	
14	グアバ（果実）	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	1.1	30.8	8.9	6.2	
14*	グアバ（果実）	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.8	17.6	7	3.5	
15	かんきつ	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	4.6	30.8	38.5	6.2	
15*	かんきつ	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	3.5	17.6	29.3	3.5	
16	かんきつ（苗木）	10 倍, 10 L/10a／春芽・夏芽又は秋芽の発生前／主幹部に吹きつけ／3 回	10	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	9.6	64.1	80.2	12.8	
16*	かんきつ（苗木）	10 倍, 10 L/10a／春芽・夏芽又は秋芽の発生前／主幹部に吹きつけ／3 回	10	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	8.3	41.7	69.4	8.3	
17	きゅうり	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.8	2	6.7	0.4	
18	メロン	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.8	2	6.7	0.4	
19	メロン	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.1	1.7	1	0.3	
19*	メロン	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.3	0.8	2.6	0.2	
20	すいか	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.1	1.7	1	0.3	
20*	すいか	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.3	0.8	2.6	0.2	
21	にがうり	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.8	2	6.7	0.4	
22	食用へちま	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.6	2	5	0.4	
23	オクラ	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	2	3	16.8	0.6	

24	トマト	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.4	2	3.5	0.4	
25	ミニトマト	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.3	2	2.6	0.4	
26	なす	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.4	2	3.5	0.4	
27	ピーマン	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.4	2	3.5	0.4	
28	ししとう	3000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	3000	液剤_野菜（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.3	1.3	2.3	0.3	
29	とうがらし類（ししとうを 除く）	3000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	3000	液剤_野菜（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.3	1.3	2.3	0.3	
30	とうがらし類（ししとうを 除く）	3000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	3000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0	1.2	0.3	0.2	
30*	とうがらし類（ししとうを 除く）	3000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	3000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.1	0.5	0.9	0.1	
31	キャベツ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.2	2.6	1.5	0.5	
31*	キャベツ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.5	3.9	4.3	0.8	
32	キャベツ	100 倍, 0.5 L/箱／育苗期後半／灌注／4 回	100	液剤_水稻_育苗箱 （育苗箱）			長ズボン・長袖 の作業衣			2.1	3.6	17.5	0.7	
33	はくさい	100 倍, 0.5 L/箱／育苗期後半／灌注／4 回	100	液剤_水稻_育苗箱 （育苗箱）			長ズボン・長袖 の作業衣			2.1	3.6	17.5	0.7	
34	はくさい	3000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	3000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.1	1.7	1	0.3	
34*	はくさい	3000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	3000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.3	2.6	2.9	0.5	
35	ブロッコリー	3000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	3000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0	1.7	0.3	0.3	
35*	ブロッコリー	3000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	3000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.3	2.6	2.4	0.5	

36	カリフラワー	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.1	2.6	0.5	0.5	
36*	カリフラワー	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.4	3.9	3.6	0.8	
37	だいこん	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0	2.6	0.4	0.5	
37*	だいこん	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.4	3.9	3.3	0.8	
38	非結球あぶらな科葉菜類 （チンゲンサイ、なばな類 を除く）	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／2 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.1	2.6	0.7	0.5	
38*	非結球あぶらな科葉菜類 （チンゲンサイ、なばな類 を除く）	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／2 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.3	3.9	2.2	0.8	
39	非結球あぶらな科葉菜類 （チンゲンサイ、なばな類 を除く）	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／2 回	2000	液剤_水稻（手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.1	1.6	0.4	0.3	
39*	非結球あぶらな科葉菜類 （チンゲンサイ、なばな類 を除く）	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／2 回	2000	液剤_水稻（機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.3	3.9	2.2	0.8	
40	チンゲンサイ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.2	2.6	1.5	0.5	
40*	チンゲンサイ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.5	3.9	4.3	0.8	
41	かぶ	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.1	2.6	0.5	0.5	
41*	かぶ	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.5	3.9	4.3	0.8	
42	ねぎ	1000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.1	5.2	1.2	1	
42*	ねぎ	1000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.8	7.8	6.9	1.6	
43	わけぎ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.1	2.6	0.6	0.5	
43*	わけぎ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.4	3.9	3.5	0.8	

44	ばれいしょ	100 倍, 20 L/10a／植付時／植溝内土壌散布／ 4 回	100	液剤_芝（手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1	1.5	8.6	0.3	
45	ばれいしょ	2000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.5	2.6	3.9	0.5	
45*	ばれいしょ	2000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			2.1	3.9	17.9	0.8	
46	ばれいしょ	750 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 4 回	750	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.1	0.6	0.9	0.1	
46*	ばれいしょ	750 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 4 回	750	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.5	0.9	4	0.2	
47	やまのいも	3000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	3000	液剤_野菜（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.3	2	11.2	0.4	
48	やまのいも	32 倍, 3.2 L/10a／収穫7日前まで／無人航空機による散布／ 4 回	32	液剤_無人航空機 （-）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.1	0.7	1.1	0.1	
49	未成熟とうもろこし	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			2	3	16.8	0.6	
50	だいず	3000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	3000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.6	1.7	5.3	0.3	
50*	だいず	3000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	3000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.4	2.6	11.9	0.5	
51	えだまめ	3000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	3000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.2	1.7	1.4	0.3	
51*	えだまめ	3000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	3000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.9	2.6	7.2	0.5	
52	いんげんまめ	3000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	3000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.2	1.7	1.4	0.3	
52*	いんげんまめ	3000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	3000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.9	2.6	7.2	0.5	
53	さやいんげん	3000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	3000	液剤_野菜（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.3	2	11.2	0.4	
54	実えんどう	2000 倍, 300 L/10a／収穫開始7日前まで／散布／ 3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			2	3	16.8	0.6	

55	エンサイ	2000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.1	2.6	1.1	0.5	
55*	エンサイ	2000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.4	3.9	3.3	0.8	
56	レタス	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.1	2.6	1.1	0.5	
56*	レタス	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.4	3.9	3.3	0.8	
57	しゅんぎく	2000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.2	2.6	1.5	0.5	
57*	しゅんぎく	2000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.5	3.9	4.3	0.8	
58	しそ	3000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 2 回	3000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.1	1.7	0.5	0.3	
58*	しそ	3000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 2 回	3000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.2	2.6	1.4	0.5	
59	うこぎ	3000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／ 2 回	3000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.1	1.7	0.5	0.3	
59*	うこぎ	3000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／ 2 回	3000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.2	2.6	1.4	0.5	
60	セージ	2000 倍, 300 L/10a／収穫21日前まで／散布／ 3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.1	2.6	1.1	0.5	
60*	セージ	2000 倍, 300 L/10a／収穫21日前まで／散布／ 3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.4	3.9	3.3	0.8	
61	にら	2000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.1	2.6	0.6	0.5	
61*	にら	2000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.4	3.9	3.5	0.8	
62	モロヘイヤ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.1	2.6	1.1	0.5	
62*	モロヘイヤ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.4	3.9	3.3	0.8	

63	アスパラガス	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	2	3	16.8	0.6	
64	ほうれんそう	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.1	2.6	1.1	0.5	
64*	ほうれんそう	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.4	3.9	3.3	0.8	
65	みょうが（花穂）	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。／3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	2	3	16.8	0.6	
66	みょうが（茎葉）	2000 倍, 300 L/10a／みょうが(花穂)の収穫前日まで 但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.3	2.6	2.8	0.5	
66*	みょうが（茎葉）	2000 倍, 300 L/10a／みょうが(花穂)の収穫前日まで 但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.8	3.9	6.5	0.8	
67	てんさい	3000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／5 回	3000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0	1.7	0.4	0.3	
67*	てんさい	3000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／5 回	3000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.4	2.6	3.6	0.5	
68	てんさい	50 倍, 1 L/箱／定植前／苗床灌注／5 回	50	液剤_水稻_育苗箱 （育苗箱）		長ズボン・長袖 の作業衣	8.4	14.4	70	2.9	
69	茶	2000 倍, 400 L/10a／摘採7日前まで／散布／1 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.2	3.5	1.3	0.7	
69*	茶	2000 倍, 400 L/10a／摘採7日前まで／散布／1 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.3	5.2	2.9	1	
70	花き類・観葉植物（宿根アスター、トルコギキョウ、きくを除く）	1000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	1.4	5.2	11.3	1	
70*	花き類・観葉植物（宿根アスター、トルコギキョウ、きくを除く）	1000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	3.1	7.8	26	1.6	
71	花き類・観葉植物（宿根アスター、トルコギキョウ、きくを除く）	1000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	1000	液剤_野菜（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	4	6	33.5	1.2	
72	花き類・観葉植物（宿根アスター、トルコギキョウ、きくを除く）	1000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	1000	液剤_水稻（手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	0.8	3.2	7	0.6	
72*	花き類・観葉植物（宿根アスター、トルコギキョウ、きくを除く）	1000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	1000	液剤_水稻（機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	3.1	7.8	26	1.6	

73	宿根アスター	1000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	1000	液剤_野菜（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			4	6	33.5	1.2	
74	トルコギキョウ	1000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.4	5.2	11.3	1	
74*	トルコギキョウ	1000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			3.1	7.8	26	1.6	
75	つつじ類	2000 倍, 400 L/10a／発生初期／散布／5 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			10.6	17.6	88.1	3.5	
75*	つつじ類	2000 倍, 400 L/10a／発生初期／散布／5 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			5	10.1	41.9	2	
76	きく	1000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.4	5.2	11.3	1	
76*	きく	1000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			3.1	7.8	26	1.6	
77	きく	3333.3 倍, 1000 L/10a／発生初期／灌水チューフ ¹⁾ を用いた灌注処理／6 回	3333	液剤_芝（手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.5	2.3	12.9	0.5	
78	非結球レタス	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.1	2.6	1.1	0.5	
78*	非結球レタス	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.4	3.9	3.3	0.8	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2. 登録番号20673：アクタラ粒剤5（チアメトキサム0.50%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	20673
	種類・名称	チアメトキサム粒剤(アクタラ粒剤5)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋					
1	きゅうり	1.1 kg/10a／定植時／植穴処理／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.2	0.4	1.5	0.1	
2	なす	1 kg/10a／育苗期後半／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.3	0.4	2.3	0.1	
3	なす	2 kg/10a／定植時／植穴処理／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.2	0.8	1.4	0.2	
4	トマト	3.8 kg/10a／定植時／植穴処理／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.3	1.5	2.6	0.3	
5	トマト	1.9 kg/10a／育苗期後半／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.5	0.7	4.4	0.1	
6	ミニトマト	4.2 kg/10a／定植時／植穴処理／3回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.3	1.7	2.2	0.3	
7	ミニトマト	2.1 kg/10a／育苗期後半／株元散布／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.6	0.8	4.9	0.2	
8	ピーマン	3.4 kg/10a／定植時／植穴処理／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.3	1.3	2.3	0.3	
9	とうがらし類	2.08 kg/10a／定植時／植穴処理／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.2	0.8	1.4	0.2	
10	カリフラワー	3.4 kg/10a／育苗期後半／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.3	1.9	10.5	0.4	

11	ブロッコリー	7.8 kg/10a／育苗期後半／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.9	4.4	24.2	0.9	
12	ブロッコリー	30 g/箱／は種時／散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.8	1.3	6.5	0.3	
13	キャベツ	30 g/箱／育苗期後半／散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.8	1.3	6.5	0.3	
14	キャベツ	9.6 kg/10a／育苗期後半／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			3.6	5.4	29.8	1.1	
15	キャベツ	6 kg/10a／は種前／全面土壌混和（苗地床）／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.2	3.4	18.6	0.7	
16	キャベツ	9.6 kg/10a／定植時／植穴処理／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.5	5.7	21.2	1.1	
17	キャベツ	30 g/箱／は種時／散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.8	1.3	6.5	0.3	
18	キャベツ	60 g/箱／は種前／床土混和／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.6	2.7	13	0.5	
19	はくさい	6.4 kg/10a／育苗期後半／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.4	3.6	19.9	0.7	
20	はくさい	60 g/箱／は種前／床土混和／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.6	2.7	13	0.5	
21	すいか	0.92 kg/10a／定植時／植穴処理／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.1	0.4	1.2	0.1	
22	いちご	8 kg/10a／定植時／植穴処理／3回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			3.2	4.8	26.5	1	
23	メロン	1.18 kg/10a／定植時／植穴処理／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.2	0.5	1.6	0.1	
24	にがうり	0.4 kg/10a／定植時／植穴処理／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.1	0.2	0.5	0	
25	レタス	6.3 kg/10a／育苗期後半／株元散布／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.3	3.5	19.5	0.7	
26	レタス	60 g/箱／は種前／床土混和／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.6	2.7	13	0.5	

27	非結球レタス	30 kg/10a／育苗期後半／株元散布／ 3 回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			11.2	16.8	93.1	3.4	
28	非結球レタス	60 g/箱／は種前／床土混和／ 3 回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.6	2.7	13	0.5	
29	かんしょ	6 kg/10a／育苗期／株元散布／ 1 回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.2	3.4	18.6	0.7	
30	かんしょ	9 kg/10a／植付前／作条混和／ 1 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			3.3	5.4	27.8	1.1	
31	かんしょ	9 kg/10a／植付前／全面土壌混和／ 1 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			3.3	5.4	27.8	1.1	
32	さといも	6 kg/10a／植付前／作条混和／ 1 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.2	3.6	18.5	0.7	
33	さといも	6 kg/10a／土寄せ時（収穫 1 4 日前まで）／株元散布／ 2 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.4	3.6	19.8	0.7	
34	やまのいも	6 kg/10a／萌芽期／株元散布／ 4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.4	3.6	19.8	0.7	
35	やまのいも	6 kg/10a／植付時／植溝土壌混和／ 4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.4	3.6	19.8	0.7	
36	ばれいしょ	6 kg/10a／植付時／作条混和／ 4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.4	3.6	19.8	0.7	
37	にら	6 kg/10a／植付時／作条混和／ 4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.3	3.6	10.6	0.7	
38	ねぎ	6 kg/10a／は種時／作条混和／ 4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.3	3.6	10.6	0.7	
39	ねぎ	9 kg/10a／植付時／作条混和／ 4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.9	5.4	15.9	1.1	
40	わけぎ	6 kg/10a／植付時／作条混和／ 4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.3	3.6	10.6	0.7	
41	あさつき	6 kg/10a／植付時／作条混和／ 1 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.3	3.6	2.6	0.7	
42	非結球あぶらな科葉菜類 （チンゲンサイ、なばな類 を除く）	6 kg/10a／は種時／作条混和／ 3 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.2	3.6	9.9	0.7	

43	チンゲンサイ	60 g/箱／は種前／床土混和／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.6	2.7	13	0.5	
44	チンゲンサイ	6 kg/10a／定植時／作条混和／3回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.2	3.6	9.9	0.7	
45	セルリー	7.4 kg/10a／鉢上時／土壌混和／2回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.8	4.1	23	0.8	
46	セルリー	7.4 kg/10a／定植時／植穴処理／2回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1	4.4	8.2	0.9	
47	れんこん	6 kg/10a／収穫14日前まで／湛水散布／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.7	2.6	14.4	0.5	
48	だいこん	4 kg/10a／は種時／作条混和／3回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.8	2.4	6.6	0.5	
49	かぶ	6 kg/10a／は種時／全面土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.6	3.6	13.2	0.7	
50	にんじん	6 kg/10a／は種時／全面土壌混和／1回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.4	3.6	3.3	0.7	
51	こんにゃく	6 kg/10a／培土時（但し、出芽前まで）／株元散布／1回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.2	3.6	18.5	0.7	
52	ほうれんそう	6 kg/10a／は種時／作条混和／3回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.2	3.6	9.9	0.7	
53	しゅんぎく	6 kg/10a／は種時／作条混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.6	3.6	13.2	0.7	
54	せり	3 kg/10a／親株養成期 但し、収穫100日前まで／湛水散布／ 1回	1	固形剤（粒剤）_水 稲（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.1	1.3	1.2	0.3	
55	かんきつ（苗木）	4 kg/10a／育苗期／株元散布／3回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.6	4	13.2	0.8	
56	つつじ類	9 kg/10a／生育期／株元散布／5回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			5.4	8.9	44.7	1.8	
57	つつじ類	9 kg/10a／植付時／全面土壌混和／5回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			5.4	8.9	44.7	1.8	
58	げっきつ	20 kg/10a／生育期／株元散布／3回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			11.9	19.8	99.2	4	

59	花き類・観葉植物	6 kg/10a／生育期／株元散布／6 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.4	3.6	19.8	0.7	
----	----------	-----------------------	---	----------------------	--	--	---------------------	--	--	-----	-----	------	-----	--

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3. 登録番号20674：アクタラ箱粒剤（チアメトキサム2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	20674
	種類・名称	チアメトキサム粒剤(アクタラ箱粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	2 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希積 倍数	散布時の予測式	防護装備あり							備考		
					調製時		散布時			反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲（箱育苗）	50 g/箱／移植前3日～移植当日／育苗箱中の苗の上から均一に散布する／3回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）			長ズボン・長袖の作業衣			5.2	8.9	43.4	1.8	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4. 登録番号20850：デジタルコラトップアクタラ箱粒剤、登録番号24003：協友デジタルコラトップアクタラ箱粒剤（チアメトキサム2.0%・ピロキロン12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	20850
	種類・名称	チアメトキサム・ピロキロン粒剤(デジタルコラトップアクタラ箱粒剤)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	2 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備 考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)	1)		2)
1	稲 (箱育苗)	50 g/箱／移植前3日～移植当日／育苗箱中の苗の上から均一に散布する。／3回	1	固形剤 (粒剤) _水稲_育苗箱 (育苗箱)			長ズボン・長袖の作業衣			5.2	8.9	43.4	1.8	
2	稲 (箱育苗)	50 g/箱／移植当日／育苗箱中の苗の上から均一に散布する。／3回	1	固形剤 (粒剤) _水稲_育苗箱 (育苗箱)			長ズボン・長袖の作業衣			5.2	8.9	43.4	1.8	
3	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／3回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									散布時:長ズボン・長袖の作業衣

¹⁾:AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾:AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5. 登録番号21409：クルーザーF S 3 0（チアメトキサム30.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21409
	種類・名称	チアメトキサム水和剤（クルーザーFS30）
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	30 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤: 液体/散布時:-	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備 考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	小麦	乾燥種子1 kg当り原液6 mL／は種前／塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	-	4.7	-	0.9	
2	だいず	乾燥種子1 kg当り原液6 mL／は種前／塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	-	0.4	-	0.07	
3	えだまめ	乾燥種子1 kg当り原液6 mL／は種前／塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	-	0.7	-	0.1	
4	いんげんまめ	乾燥種子1 kg当り原液6 mL／は種前／塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	-	0.7	-	0.1	
5	豆類（種実、ただし、らっかせい、だいず、いんげんまめを除く）	乾燥種子1 kg当り原液6 mL／は種前／塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	-	0.4	-	0.07	
6	とうもろこし（子実）	乾燥種子1 kg当り原液6 mL／は種前／塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	-	0.2	-	0.04	
7	未成熟とうもろこし	乾燥種子1 kg当り原液6 mL／は種前／塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	-	0.2	-	0.04	
8	飼料用とうもろこし	乾燥種子1 kg当り原液6 mL／は種前／塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク1	不浸透性手袋	-	0.3	-	0.05	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

6. 登録番号21431：リーズン顆粒水和剤（チアメトキサム10.0%・ルフェスロン5.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21431
	種類・名称	チアメトキサム・ルフェスロン水和剤(リーズン顆粒水和剤)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	10 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	顆粒水和剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液	40	3.2
	750	4.8
	2000	4.8
	3000	4.8

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	りんご	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			4	30.8	33.6	6.2	
1*	りんご	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			2.7	17.6	22.5	3.5	
2	みかん	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			4.6	30.8	38.5	6.2	
2*	みかん	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			3.5	17.6	29.3	3.5	
3	かんきつ（みかんを除く）	2000 倍, 700 L/10a／収穫21日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			4.6	30.8	38.5	6.2	
3*	かんきつ（みかんを除く）	2000 倍, 700 L/10a／収穫21日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			3.5	17.6	29.3	3.5	
4	てんさい	3000 倍, 150 L/10a／収穫14日前まで／散布／5 回	3000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0	0.9	0.2	0.2	
4*	てんさい	3000 倍, 150 L/10a／収穫14日前まで／散布／5 回	3000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.2	1.3	1.8	0.3	
5	てんさい	750 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／5 回	750	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0	0.6	0.1	0.1	
5*	てんさい	750 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／5 回	750	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.1	0.9	1.2	0.2	

6	てんさい	40 倍, 1.6 L/10a／収穫14日前まで／無人航空機による散布／ 5 回	40	液剤_無人航空機 (-)			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0	0.3	0.1	0.1	
7	茶	2000 倍, 400 L/10a／摘採7日前まで／散布／1 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.2	3.5	1.3	0.7	
7*	茶	2000 倍, 400 L/10a／摘採7日前まで／散布／1 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.3	5.2	2.9	1	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

7. 登録番号21869：アクタラAL、登録番号21961：カダンスプレーEX（チアメトキサム0.0050%液剤）

① 製剤情報	登録番号	21869
	種類・名称	チアメトキサム液剤(アクタラAL)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.005 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	エアゾル剤等	
⑥ 調製時の予測式	調製作業による暴露なし	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	50
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	トリガースプレー剤	1 L/回／ - ／ 散布／6回	1	トリガースプレー 剤						0.01	0.05	0.08	0.01	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

8. 登録番号21937：ビートルコップ顆粒水和剤（チアメトキサム25.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21937
	種類・名称	チアメトキサム水和剤 (ビートルコップ顆粒水和剤)
② 評価対象有効成分		チアメトキサム
③-1 AOEL		0.082 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.5 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		25 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体/散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		顆粒水和剤等

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	0.19
希釈液	400	4.8
	800	4.8
	2000	4.8
	4000	4.8

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	芝	4000 倍, 2000 L/10a／発生初期／散布／3 回	4000	液剤_芝（手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			1.3	3.3	1.6	0.7	
2	芝	400 倍, 100 L/10a／発生初期／散布／3 回	400	液剤_芝（手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.7	1.6	0.8	0.3	
3	芝	800 倍, 200 L/10a／発生初期／散布／3 回	800	液剤_芝（手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.7	1.6	0.8	0.3	
4	芝	2000 倍, 500 L/10a／発生初期／散布／3 回	2000	液剤_芝（手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			0.7	1.6	0.8	0.3	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

9. 登録番号22050：アトラック液剤、登録番号22051：井筒屋アトラック液剤（チアメトキサム4.0%液剤）

① 製剤情報	登録番号	22050
	種類・名称	チアメトキサム液剤 (アトラック液剤)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	4 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	乳剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	25
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	さくら	1 倍, L/10a／幼虫発生前～幼虫発生期／樹幹注入／3 回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	けやき	1 倍, L/10a／幼虫発生前～幼虫発生期／樹幹注入／3 回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
3	まつ	1 倍, L/10a／幼虫発生前～幼虫発生期／樹幹注入／3 回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
4	プラタナス	1 倍, L/10a／新葉展開後／樹幹注入／3 回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
5	ヤシ	1 倍, L/10a／幼虫発生期／樹幹注入／3 回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
6	デイゴ	1 倍, L/10a／成虫発生前又は虫えい形成期／樹幹注入／3 回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

10. 登録番号22279：デジタルメガフレア箱粒剤、登録番号24004：協友デジタルメガフレア箱粒剤（チアメトキサム8.0%・ピロキロン12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22279
	種類・名称	チアメトキサム・ピロキロン粒剤(デジタルメガフレア箱粒剤)
② 評価対象有効成分		チアメトキサム
③-1 AOEL		0.012 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.5 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		8 %
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)		製剤: 固体/散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲（箱育苗）	50 g/箱／移植前3日～移植当日／育苗箱中の苗の上から均一に散布する。／3回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク 1	不浸透性手袋	1.3	2.2	10.5	0.4	調製時：保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、散布時：保護眼鏡
2	稲（箱育苗）	50 g/箱／移植当日／育苗箱中の苗の上から均一に散布する。／3回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク 1	不浸透性手袋	1.3	2.2	10.5	0.4	調製時：保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、散布時：保護眼鏡
3	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／3回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								調製時、散布時：保護眼鏡、農薬用マスク、長ズボン・長袖の作業衣	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 1. 登録番号22329：ガーディーAL、登録番号22330：カダンプラスDX（エマメクチン安息香酸塩0.00050%・チアメトキサム0.0050%・ジフェノコナゾール0.0050%液剤）

① 製剤情報	登録番号	22329
	種類・名称	エマメクチン安息香酸塩・チアメトキサム・ジフェノコナゾール液剤(ガーディーAL)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.005 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	エアゾル剤等	
⑥ 調製時の予測式	調製作業による暴露なし	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	70
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	トリガースプレー剤	1 L/回／ - ／ 散布／6回	1	トリガースプレー 剤						0.01	0.07	0.12	0.01	

1): AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100
なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 2. 登録番号22335：花華やか顆粒水溶剤（エマメクチン安息香酸塩0.25%・チアメトキサム2.5%・ジフェノコナゾール2.5%水溶剤）

① 製剤情報	登録番号	22335
	種類・名称	エマメクチン安息香酸塩・チアメトキサム・ジフェノコナゾール水溶剤(花華やか顆粒水溶剤)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	2.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	顆粒水和剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液	500	4.8

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	花き類・観葉植物（ばら、きく、カラー、花はすを除く）	500 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	500	液剤_野菜（平面） （手散布）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.2	0.9	1.9	0.2	調製時：保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、散布時：保護眼鏡
1*	花き類・観葉植物（ばら、きく、カラー、花はすを除く）	500 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	500	液剤_野菜（平面） （機械散布）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.1	0.3	1.1	0.1	調製時：保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、散布時：保護眼鏡
2	花き類・観葉植物（ばら、きく、カラー、花はすを除く）	500 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	500	液剤_野菜（立体） （手散布）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.5	0.7	4.1	0.1	調製時：保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、散布時：保護眼鏡
3	きく	500 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	500	液剤_野菜（平面） （手散布）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.2	0.9	1.9	0.2	調製時：保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、散布時：保護眼鏡

3*	きく	500 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	500	液剤_野菜（平面） （機械散布）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.1	0.3	1.1	0.1	調製時：保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、散布時：保護眼鏡
4	ばら	500 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	500	液剤_野菜（立体） （手散布）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.5	0.7	4.1	0.1	調製時：保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、散布時：保護眼鏡
5	ポインセチア	500 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	500	液剤_野菜（平面） （手散布）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.9	1.4	7.1	0.3	調製時：保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、散布時：保護眼鏡
5*	ポインセチア	500 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	500	液剤_野菜（平面） （機械散布）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.2	0.3	1.4	0.1	調製時：保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、散布時：保護眼鏡
6	やぶつばき	500 倍, 700 L/10a／発生初期／散布／5 回	500	液剤_果樹（立体） （手散布）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク 1	不浸透性手袋	8.2	13.6	68.1	2.7	調製時：保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、散布時：保護眼鏡
6*	やぶつばき	500 倍, 700 L/10a／発生初期／散布／5 回	500	液剤_果樹（立体） （機械散布）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク 1	不浸透性手袋	3.5	6.9	28.8	1.4	調製時：保護眼鏡、長ズボン・長袖の作業衣、散布時：保護眼鏡

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 3. 登録番号22403：アミスターアクタラSC、登録番号22404：協友アミスターアクタラSC（チアメトキサム6.5%・アゾキシストロビン8.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	22404
	種類・名称	チアメトキサム・アゾキシストロビン水和剤(協友アミスターアクタラSC)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	6.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤 希釈液	1	10
	8	50
	250	50
	1000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	250 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／3 回	250	液剤_水稲（手散布）	マスク 1		長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1		10.5	45.6	87.4	9.1	
1*	稲	250 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／3 回	250	液剤_水稲（機械散布）	マスク 1		長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1		7.4	32.3	61.9	6.5	
2	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫14日前まで／散布／3 回	1000	液剤_水稲（手散布）	マスク 1	不浸透性手袋	長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1		6.2	27	51.7	5.4	
2*	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫14日前まで／散布／3 回	1000	液剤_水稲（機械散布）	マスク 1		長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1		11.1	48.5	92.9	9.7	
3	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫14日前まで／無人航空機による散布／3 回	8	液剤_無人航空機 (-)	マスク 1		長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1		7.3	31.6	60.5	6.3	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 4. 登録番号22555：ジュリボフロアブル（クロラントラニプロール8.7%・チアメトキサム17.5%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	22555
	種類・名称	クロラントラニプロール・チアメトキサム水和剤 (ジュリボフロアブル)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	17.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	2.5
希釈液	200	47
	1000	50
	4000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復 (μg ai/kg 体重/日)	急性 (μg ai/kg 体重)	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋					
1	キャベツ	1000 倍, 60 L/10a／は種時～育苗期後半／灌注／ 4 回	1000	液剤_水稲_育苗箱 (育苗箱)		不浸透性手袋	長ズボン・長 袖の作業衣			1.4	2.1	11.5	0.4	
2	キャベツ	200 倍, 0.5 L/箱／育苗期後半～定植当日／灌注／ 4 回	200	液剤_水稲_育苗箱 (育苗箱)			長ズボン・長 袖の作業衣			7.1	12.1	58.8	2.4	
3	キャベツ	4000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／ 4 回	4000	液剤_野菜 (平面) (手散布)			長ズボン・長 袖の作業衣			0.9	13.1	7.3	2.6	
3*	キャベツ	4000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／ 4 回	4000	液剤_野菜 (平面) (機械散布)			長ズボン・長 袖の作業衣			1.3	9.6	10.6	1.9	
4	はくさい	200 倍, 0.5 L/箱／育苗期後半～定植当日／灌注／ 4 回	200	液剤_水稲_育苗箱 (育苗箱)			長ズボン・長 袖の作業衣			7.1	12.1	58.8	2.4	
5	はくさい	4000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／ 4 回	4000	液剤_野菜 (平面) (手散布)			長ズボン・長 袖の作業衣			0.9	13.1	7.3	2.6	
5*	はくさい	4000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／ 4 回	4000	液剤_野菜 (平面) (機械散布)			長ズボン・長 袖の作業衣			1.3	9.6	10.6	1.9	
6	ブロッコリー	200 倍, 0.5 L/箱／育苗期後半～定植当日／灌注／ 4 回	200	液剤_水稲_育苗箱 (育苗箱)			長ズボン・長 袖の作業衣			7.1	12.1	58.8	2.4	
7	ブロッコリー	4000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 4 回	4000	液剤_野菜 (平面) (手散布)			長ズボン・長 袖の作業衣			0.3	13.1	2.4	2.6	
7*	ブロッコリー	4000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 4 回	4000	液剤_野菜 (平面) (機械散布)			長ズボン・長 袖の作業衣			1	9.6	8.7	1.9	

8	レタス	200 倍, 0.5 L/箱／育苗期後半～定植当日／灌注／ 3 回	200	液剤_水稲_育苗箱 (育苗箱)			長ズボン・長 袖の作業衣			7.1	12.1	58.8	2.4	
9	レタス	4000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	4000	液剤_野菜 (平面) (手散布)			長ズボン・長 袖の作業衣			0.7	13.1	5.4	2.6	
9*	レタス	4000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	4000	液剤_野菜 (平面) (機械散布)			長ズボン・長 袖の作業衣			1	9.6	8	1.9	
10	非結球レタス	200 倍, 0.5 L/箱／育苗期後半～定植当日／灌注／ 1 回	200	液剤_水稲_育苗箱 (育苗箱)			長ズボン・長 袖の作業衣			7.1	12.1	58.8	2.4	
11	ねぎ	200 倍, 0.5 L/箱／育苗期後半～定植当日／灌注／ 4 回	200	液剤_水稲_育苗箱 (育苗箱)			長ズボン・長 袖の作業衣			7.1	12.1	58.8	2.4	
12	なばな類	200 倍, 0.5 L/箱／育苗期後半～定植当日／灌注／ 1 回	200	液剤_水稲_育苗箱 (育苗箱)			長ズボン・長 袖の作業衣			7.1	12.1	58.8	2.4	
13	パセリ	200 倍, 0.5 L/箱／育苗期後半～定植当日／灌注／ 1 回	200	液剤_水稲_育苗箱 (育苗箱)			長ズボン・長 袖の作業衣			7.1	12.1	58.8	2.4	

¹⁾:AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾:AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

15. 登録番号22917：クルーザーMAXX（チアメトキサム22.6%・フルジオキシニル1.1%・メタラキシルM1.7%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	22917
	種類・名称	チアメトキサム・フルジオキシニル・メタラキシルM水和剤 (クルーザーMAXX)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	22.6 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: -	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	いんげんまめ	乾燥種子1 kg当り8 mL／は種前／塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	-	0.7	-	0.1	
2	あずき	乾燥種子1 kg当り8 mL／は種前／塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	-	0.4	-	0.07	
3	だいず	乾燥種子1 kg当り8 mL／は種前／塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	-	0.4	-	0.07	
4	えだまめ	乾燥種子1 kg当り8 mL／は種前／塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	-	0.7	-	0.1	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

16. 登録番号23161：クレーザー48（チアメトキサム48.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23161
	種類・名称	チアメトキサム水和剤（クレーザー48）
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	48 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤：液体／散布時：－	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希積 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	なす	乾燥種子1000粒当たり0.83 mL／は種前／種子処理機による塗抹 処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手 袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク1	不浸透性手 袋	-	0.01	-	0.002	
2	ピーマン	乾燥種子1000粒当たり1.67 mL／は種前／種子処理機による塗抹 処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手 袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク1	不浸透性手 袋	-	0.02	-	0.004	
3	きゅうり	乾燥種子1000粒当たり1.67 mL／は種前／種子処理機による塗抹 処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手 袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク1	不浸透性手 袋	-	0.03	-	0.01	
4	メロン	乾燥種子1000粒当たり1.67 mL／は種前／種子処理機による塗抹 処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手 袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク1	不浸透性手 袋	-	0.03	-	0.01	
5	レタス	乾燥種子1000粒当たり1.66 mL／は種前／種子処理機による塗抹 処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手 袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク1	不浸透性手 袋	-	3.5	-	0.7	
6	ほうれんそう	乾燥種子1000粒当たり0.17 mL／は種前／種子処理機による塗抹 処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手 袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク1	不浸透性手 袋	-	0.4	-	0.07	
7	てんさい	乾燥種子1ユニット(約10万粒)当たり150 mL／は種前／種子処理 機による塗抹処理／-回	1	-	マスク1	不浸透性手 袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク1	不浸透性手 袋	-	1.3	-	0.3	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

17. 登録番号23783：ミネクトデュオ粒剤（シアントラニプロール0.50%・チアメトキサム0.30%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23783
	種類・名称	シアントラニプロール・チアメトキサム粒剤(ミネクトデュオ粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	チアメトキサム	
③-1 AOEL	0.012 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.5 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.3 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋					
1	キャベツ	40 g/箱／は種覆土後～育苗期後半／散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.6	1.1	5.2	0.2	
2	キャベツ	4.8 kg/10a／定植時／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.8	1.7	6.4	0.3	
3	キャベツ	30 g/箱／は種時／散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.5	0.8	3.9	0.2	
4	キャベツ	4.8 kg/10a／は種前／全面土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			1.1	1.6	8.9	0.3	
5	キャベツ	48 g/箱／は種前／育苗培土混和／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.8	1.3	6.3	0.3	
6	はくさい	40 g/箱／は種覆土後～育苗期後半／散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.6	1.1	5.2	0.2	
7	はくさい	3.2 kg/10a／定植時／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.5	1.1	4.2	0.2	
8	はくさい	48 g/箱／は種前／育苗培土混和／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.8	1.3	6.3	0.3	
9	ブロッコリー	40 g/箱／は種覆土後～育苗期後半／散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.6	1.1	5.2	0.2	
10	ブロッコリー	3.9 kg/10a／定植時／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.5	1.4	4.2	0.3	

11	ブロッコリー	30 g/箱／は種時／散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.5	0.8	3.9	0.2	
12	ブロッコリー	48 g/箱／は種前／育苗培土混和／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.8	1.3	6.3	0.3	
13	カリフラワー	40 g/箱／育苗期後半／散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.6	1.1	5.2	0.2	
14	レタス	40 g/箱／は種覆土後～育苗期後半／散布／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.6	1.1	5.2	0.2	
15	レタス	6.3 kg/10a／定植時／株元散布／3回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.8	2.3	6.3	0.5	
16	レタス	24 g/箱／は種前／育苗培土混和／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.4	0.6	3.1	0.1	
17	非結球レタス（リーフレタスを除く）	40 g/箱／育苗期後半／散布／1回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.6	1.1	5.2	0.2	
18	リーフレタス	40 g/箱／は種覆土後～育苗期後半／散布／1回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.6	1.1	5.2	0.2	
19	ねぎ	40 g/箱／育苗期後半／散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.6	1.1	5.2	0.2	
20	ねぎ	6 kg/10a／定植時／植溝土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.8	2.1	6.4	0.4	
21	ねぎ	6 kg/10a／定植時／作条散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.8	2.1	6.4	0.4	
22	ねぎ	6 kg/10a／収穫3日前まで／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.8	2.1	6.4	0.4	
23	きゅうり	1.1 kg/10a／鉢上げ時／育苗培土混和／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.2	0.2	1.5	0	
24	きゅうり	1.1 kg/10a／鉢上げ時～育苗期後半／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.2	0.2	1.5	0	
25	なす	2 kg/10a／鉢上げ時～育苗期後半／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.3	0.4	2.8	0.1	
26	なす	2 kg/10a／鉢上げ時／育苗培土混和／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）		長ズボ ン・長袖 の作業衣		0.3	0.4	2.8	0.1	

27	すいか	0.92 kg/10a／鉢上げ時～育苗期後半／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.2	0.2	1.3	0	
28	すいか	0.92 kg/10a／定植時／植穴処理／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.1	0.2	0.7	0	
29	メロン	1.18 kg/10a／鉢上げ時～育苗期後半／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.2	0.3	1.6	0.1	
30	ピーマン	3.4 kg/10a／鉢上げ時～育苗期後半／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.6	0.8	4.7	0.2	
31	トマト	3.8 kg/10a／鉢上げ時／育苗培土混和／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.6	0.8	5.3	0.2	
32	トマト	3.8 kg/10a／鉢上げ時～育苗期後半／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.6	0.8	5.3	0.2	
33	トマト	3.8 kg/10a／定植時／植穴処理／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.2	0.9	1.6	0.2	
34	ミニトマト	4.2 kg/10a／鉢上げ時～育苗期後半／株元散布／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.7	0.9	5.9	0.2	
35	ミニトマト	4.2 kg/10a／鉢上げ時／育苗培土混和／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.7	0.9	5.9	0.2	
36	ミニトマト	4.2 kg/10a／定植時／植穴処理／3回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			0.2	1	1.3	0.2	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。